

令和 3 年度（2021 年度）

箕面子どもステップアップ調査結果報告
（その 2）

- 箕面学力調査
- 学習状況・生活状況調査

令和 4 年（2022 年）4 月

箕面市教育委員会

目次

箕面子どもステップアップ調査の概要	1
「箕面学力調査」「箕面学習状況・生活状況調査」について	4
箕面学力調査＜概要＞	6
箕面学習状況・生活状況調査＜概要＞	8
箕面学力調査＜概要＞国語	10
箕面学力調査＜概要＞社会	14
箕面学力調査＜概要＞算数・数学	18
箕面学力調査＜概要＞理科	22
箕面学力調査＜概要＞英語	26
箕面学習状況・生活状況調査＜概要＞	30

箕面子どもステップアップ調査の概要

1 「箕面子どもステップアップ調査」とは

国には、

○全国学力・学習状況調査

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査

府には、

○(大阪府)すくすくウォッチ

があります。

箕面市では、国・府の調査の他、独自に以下の調査を実施しています。

○箕面学力調査

○英検 IBA

○箕面体力・運動能力、運動習慣等調査

○学習状況・生活状況調査

○学校生活アンケート

箕面市では、これら国・府の調査、箕面市独自調査のすべてを総称し、「箕面子どもステップアップ調査」と呼んでいます。

箕面子どもステップアップ調査
(箕面学力・体力・生活状況総合調査)概要

		実施時期	1年生 (小1)	2年生 (小2)	3年生 (小3)	4年生 (小4)	5年生 (小5)	6年生 (小6)	7年生 (中1)	8年生 (中2)	9年生 (中3)
学力 調査	全国学力学習状況調査	5月						● 国・算			● 国・数
	すくすくウォッチ	5月					● 教科横断 的な問題	● 教科横断 的な問題			
	学力調査	12月	● 2教科	● 2教科	● 4教科	● 4教科	● 5教科	● 5教科	● 5教科	● 5教科	
	英検IBA	10月									●
体力調査 (★は全国調査に参加)		4月～6月	● 3種目	● 3種目	● 3種目	● 5種目	●★ 8種目	● 8種目	● 8種目	●★ 8種目	● 8種目
生活 状況 調査	学習状況 生活状況調査	6月・12月									
	学校生活 アンケート	10月・2月	●	●	●	●	●	●	●	●	●

2 報告の概要

この報告は、ステップアップ調査のうち、令和3年12月に実施した箕面学力調査、令和3年10月に実施した英検 IBA、令和3年6月と令和3年12月に実施した、箕面学習状況・生活状況調査の市全体の結果の概要を報告するものです。

なお、各学校の結果概要については、各学校の「ステップアップ調査概要」において、報告しています。

3 箕面子どもステップアップ調査内容

○ 学 力 調 査

▼学年ごとに子どもたち一人ひとりの各教科の到達度を把握・分析し、子どもたち一人ひとりに応じた着実な学力の向上を図ります。

▼調査結果を活用し、各学年の年間指導計画を立て、継続性のある学習指導を行うとともに、教員の指導力・授業力の向上を図ります。

内 容

(1)全国学力・学習状況調査

【6年生(小6)】 国語、算数

【9年生(中3)】 国語、数学

(2)(大阪府)すくすくウォッチ

【5、6年生(小5、6)】 わくわく問題(教科横断型問題)

(3)箕面学力調査

【1～2年生(小1～小2)】 国語・算数

【3～4年生(小3～小4)】 国語・社会・算数・理科

【5～6年生(小5～小6)】 国語・社会・算数・理科・英語

【7～8年生(中1～中2)】 国語・社会・数学・理科・英語

なお、国語と英語は、リスニング(聞き取り)調査も実施

※各教科とも11月までに学習した範囲で、各学年における各科目の到達度を調査

(4)英検 IBA

【9年生(中3)】 英検3級レベルを実施

○ 体 力 調 査

▼子どもたち一人ひとりの発達段階に応じた基本的な運動能力を調査し、基礎体力の向上を図ります。

▼日頃の運動習慣等を把握し、学校での様々な取り組みにつなげるとともに、家庭や地域と連携して課題の改善を図ります。

内 容

(1)箕面体力・運動能力調査……「全国体力・運動能力等調査」と同時に実施

◎調査種目

【1～3年生(小1～小3)】 立ち幅とび・50m 走・ソフトボール投げ

【4年生(小4)】 立ち幅とび・50m 走・ソフトボール投げ・反復横とび・20m シャトルラン

【5～9年生(小5～中3)】 立ち幅とび・50m 走・ソフトボール投げ(中学生はハンドボール投げ)・反復横とび・20m シャトルラン・握力・上体おこし・長座体前屈

(2)運動習慣、生活習慣等に関するアンケート調査……全学年で実施

○生活状況調査

▼子どもたちの学習習慣、ご家庭や学校での生活状況をアンケート形式で調査し、自尊感情*などの向上及び学習課題や生活課題の改善を図ります。

内 容

- ・ 「自尊感情」等の自己認識、「規範意識」や「思いやり」等の社会性、学級環境、生活や学習の習慣等の調査
- ・ 「いじめ」に対する子どもたちの意識・状況も調査

※自尊感情…自分自身に対する肯定的な感情。自分で自分自身を価値ある存在だとする感情。

4 箕面市の指標と目標値

本市では、児童生徒一人ひとりの学力・体力・生活状況を継続的に把握し、教育指導の充実や学習状況・生活状況の改善にむけた取り組み結果の検証軸として、以下の指標と目標値を設定しています。

令和3年度(2021 年度)の目標値

	指 標	名	目 標 値
1	全国学力・学習状況調査	学力調査	トップの都道府県の平均正答率を上回る。
2	学習状況・生活状況調査	家庭学習時間の回答結果（全学年） 『小学生が1時間以上、中学生が2時間以上』	小学校 58.0、中学校 56.0 以上 （目標値は過去の最良値）
3		【いじめのサイン】の肯定値	肯定的な回答率が小学校 85% 中学校 95%を上回る。
4		『自己肯定感に係る項目の肯定値の平均』 ①成功体験と自信 ②充実感と向上心 ③感動体験 ④他者からの評価	小学校 ①成功体験と自信 85.0 以上 ②充実感と向上心 95.0 以上 ③感動体験 75.0 以上 ④他者からの評価 70.0 以上 中学校 ①成功体験と自信 80.0 以上 ②充実感と向上心 85.0 以上 ③感動体験 70.0 以上 ④他者からの評価 70.0 以上
5	英検 IBA	英検 3 級程度の力（中 3）	80% ※ 英検 3 級程度の力を有する生徒
6	体力・運動能力・運動習慣等調査	全 8 種目の結果（全学年）	全国平均値を上回る。
7	学習状況・生活状況調査	学級風土に係る項目の肯定値の平均 ①『学級の規範意識』 ②『学級の絆』	肯定値 小学校①80.0 以上②85.0 以上 中学校①75.0 以上②85.0 以上

「箕面学力調査」、「箕面学習状況・生活状況調査」について

1 調査の目的

- (1) 箕面市教育委員会は、市内の児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校は、自校の児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、児童生徒一人ひとりへの教育指導の充実や学習状況の改善などに活用する。
- (3) 箕面市教育委員会、学校は、上記(1)(2)の取組を通して、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 実施日

第1回箕面学習状況・生活状況調査

小・中学校 : 令和3年(2021年)6月11日(金)

箕面学力調査及び第2回箕面学習状況・生活状況調査

小学校 : 令和3年(2021年)12月7日(火)

令和3年(2021年)12月8日(水)

中学校 : 令和3年(2021年)12月21日(火)

令和3年(2021年)12月22日(水)

3 調査対象

市内全公立小学校全児童及び、全中学校全生徒

4 調査内容

箕面学力調査

1・2年生 : 国語、算数

3・4年生 : 国語、算数、理科、社会

5・6年生 : 国語、算数、理科、社会、英語

7・8年生(中1、中2) : 国語、数学、理科、社会、英語

箕面学習状況、生活状況に関する調査

自己認識、社会性、学級環境、生活・学習習慣等の諸側面等に関する内容

5 参加人数

第1回箕面学習状況・生活状況調査

小学校 : 14校

8,721人

中学校 : 8校

3,618人

計 12,339人

箕面学力調査

小学校	： 14校	8, 522人	
中学校	： 8校	2, 394人	計 10, 916人

第2回箕面学習状況・生活状況調査

小学校	： 14校	8, 659人	
中学校	： 8校	3, 563人	計 12, 222人

6 公表の目的

本市の教育及び教育施策における子どもの学力向上の取組の成果と課題をできるだけわかりやすく、市民や保護者へ説明することにより、地域・家庭の方々の学校教育への理解と信頼を得るとともに、子どもの学力向上及び生活状況の向上に向けて連携した取組につなげる。

7 公表の方法

- (1) 本市の調査結果や分析結果については、平均正答率等を活用し文書等により説明する。
- (2) 学校間の過度の競争等につながるおそれのある個々の学校名を明らかにした公表は行わない。
- (3) 各学校においては、自校の調査結果や分析結果を文書等により保護者に説明する。

8 公表の手段

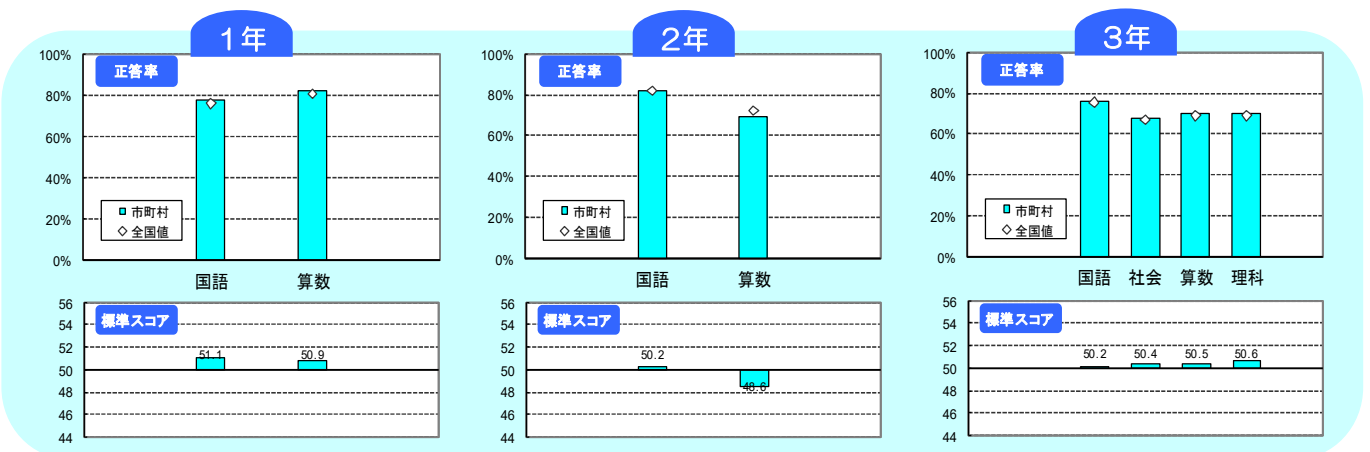
- (1) 教育委員会
 - ①教育委員会ホームページ
 - ②行政資料コーナー
 - ③豊川支所、止々呂美支所
 - ④市内公立図書館の資料コーナー
- (2) 各学校
 - ①「学年の概要」で説明
 - ②学校協議会、懇談会などで説明

箕面学力調査 〈概要〉

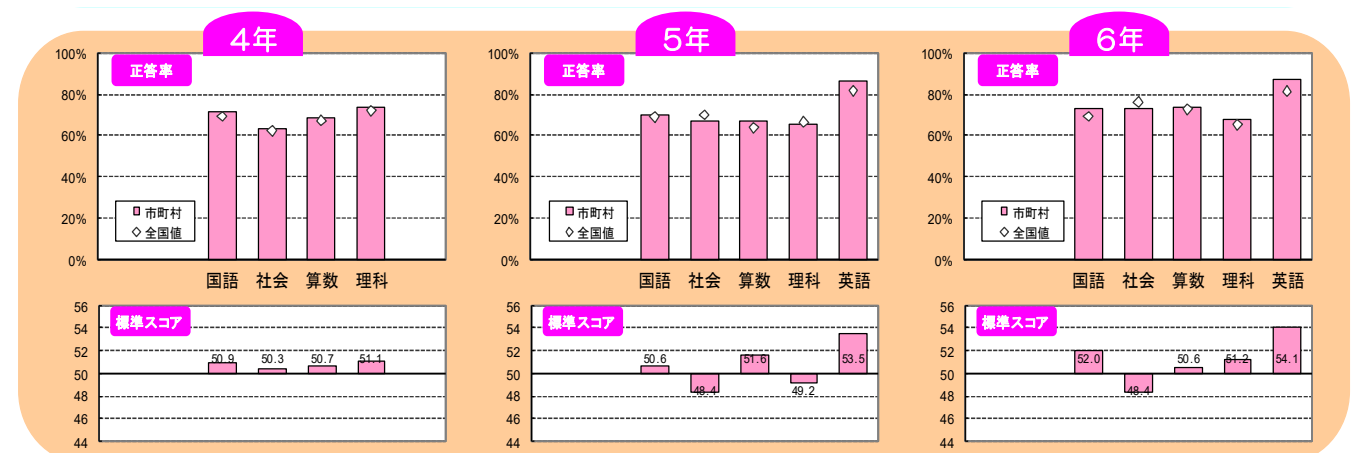
小学校 〈平均正答率の状況〉

	小1		小2		小3			
教科	国語	算数	国語	算数	国語	社会	算数	理科
箕面市平均点	77.8	81.9	82.3	69.2	75.9	67.8	69.8	70.2
全国平均点	75.9	80.6	81.9	72.3	75.6	67.0	68.9	69.0
箕面市偏差値	51.1	50.9	50.2	48.6	50.2	50.4	50.5	50.6

「全国値」とは、委託業者が各都道府県あたり1校以上の学校に対して、同一問題のテストを事前を実施して、算出したものです。

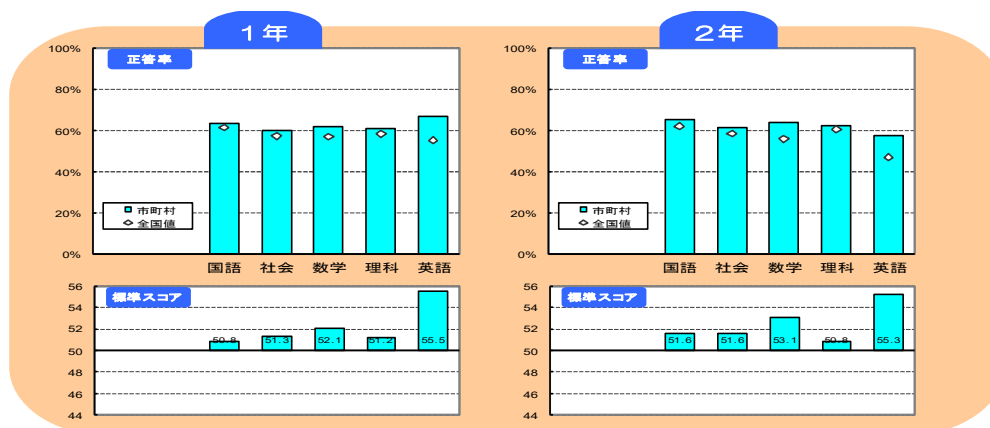


	小4				小5					小6				
教科	国語	社会	算数	理科	国語	社会	算数	理科	英語	国語	社会	算数	理科	英語
箕面市平均点	71.2	63.0	68.8	73.8	69.9	66.8	66.9	65.3	86.4	73.1	72.9	73.8	67.7	87.1
全国平均点	69.3	62.3	67.3	71.9	68.9	70.0	63.8	66.6	81.6	69.2	76.1	72.6	65.3	81.4
箕面市偏差値	50.9	50.3	50.7	51.1	50.6	48.4	51.6	49.2	53.5	52.0	48.4	50.6	51.2	54.1



中学校 <平均正答率の状況>

	中 1					中 2				
教科	国語	社会	算数	理科	英語	国語	社会	算数	理科	英語
箕面市平均点	63.1	59.9	61.7	61.0	66.5	65.1	61.5	63.7	62.4	57.7
全国平均点	61.4	57.3	57.0	58.4	55.2	62.0	58.5	55.9	60.6	46.9
箕面市偏差値	50.8	51.3	52.1	51.2	55.5	51.6	51.6	53.1	50.8	55.3

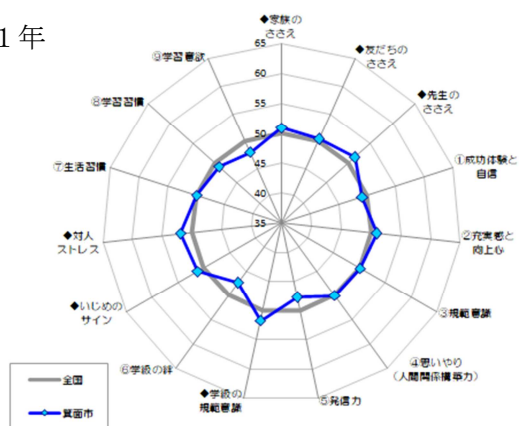


※標準スコアは、全国値の正答率を 50 としたときの換算値で、50 のラインを境に棒グラフが上に出ていれば相対的に良好であることを、下に出ていれば課題があることを示しています。

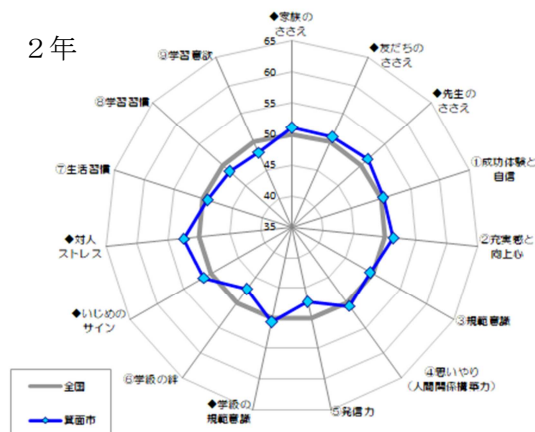
※外側に広がるほど、良好な結果になります。

小学校

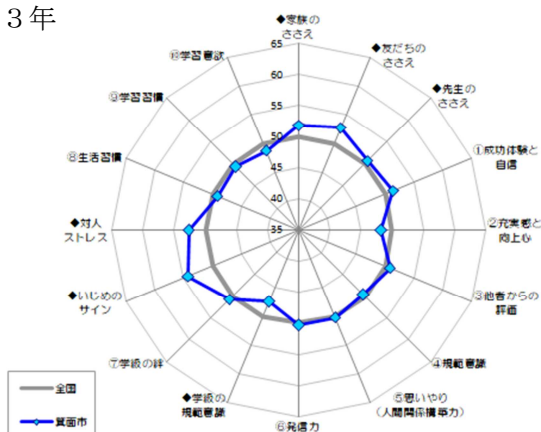
1 年



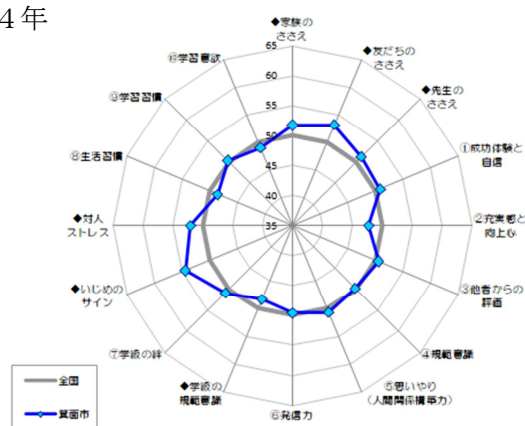
2 年



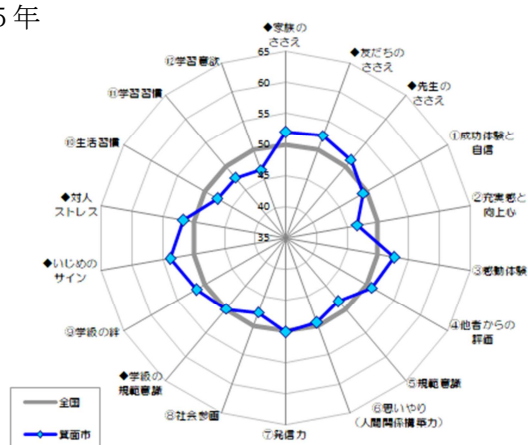
3 年



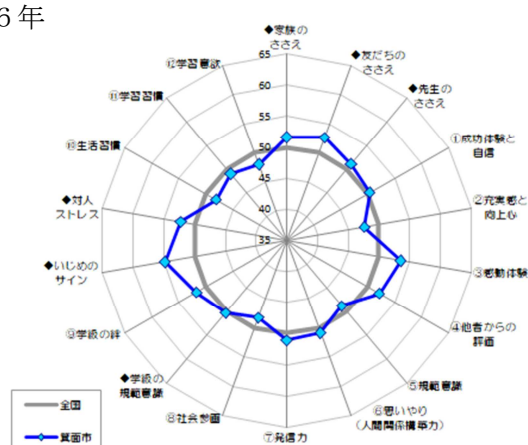
4 年



5 年

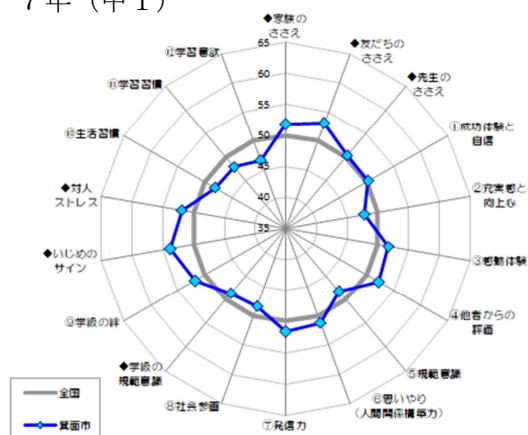


6 年

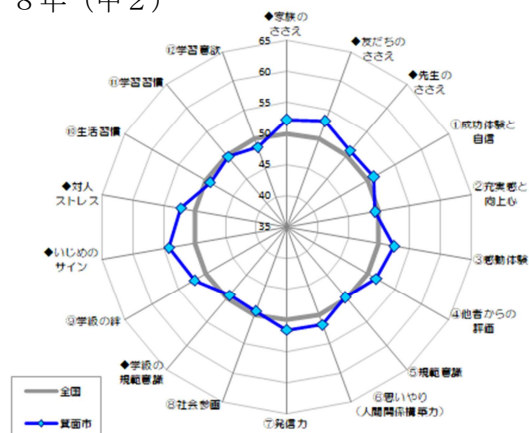


中学校

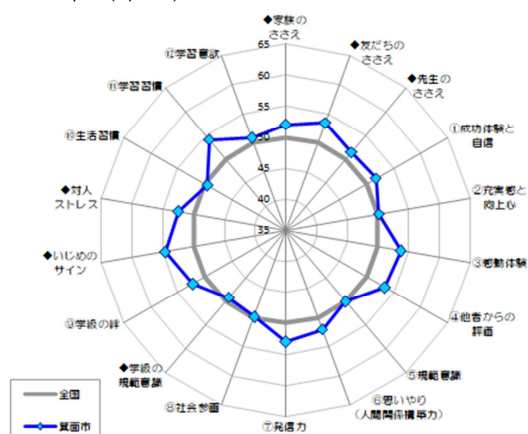
7年（中1）



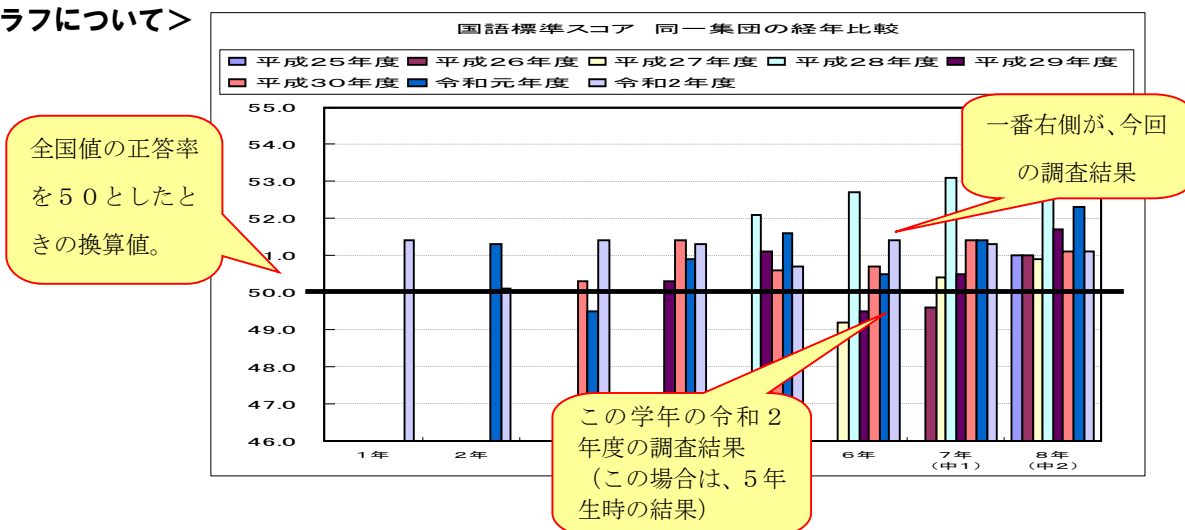
8年（中2）



9年（中3）



<グラフについて>



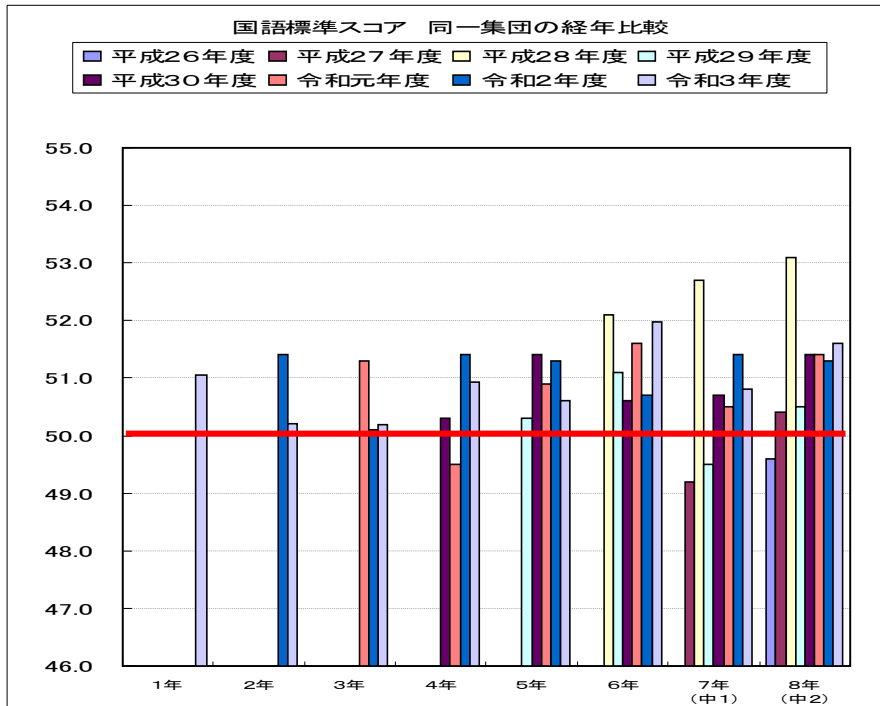
<学年表記について>

「1年」とは、小学1年生であり、中学1年生は、「7年（中1）」と表記しています。

算面学力調査〈概要〉 国語

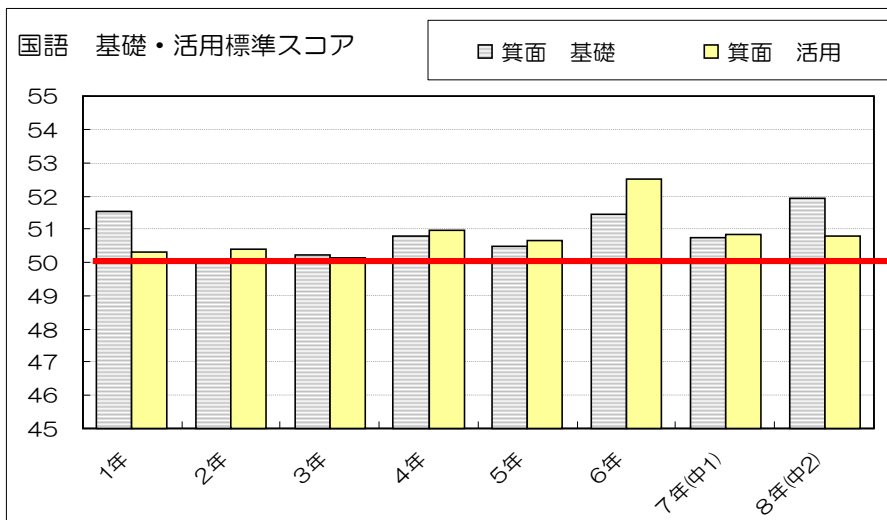
学年ごとの標準スコア

※標準スコア…全国平均値の正答率を50としたときの値のことです。



- 全ての学年において全国平均値を上回っています。
- 同一集団で経年比較すると、上昇傾向の学年もありますが、課題の見られる学年もあります。

基礎と活用(思考力・判断力・表現力)の状況



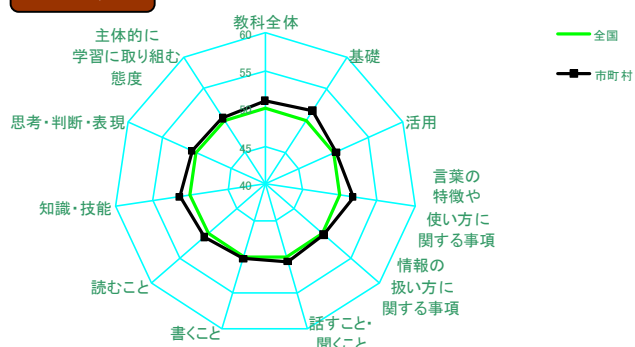
標準スコアはすべての学年で全国平均値を上回ったね。



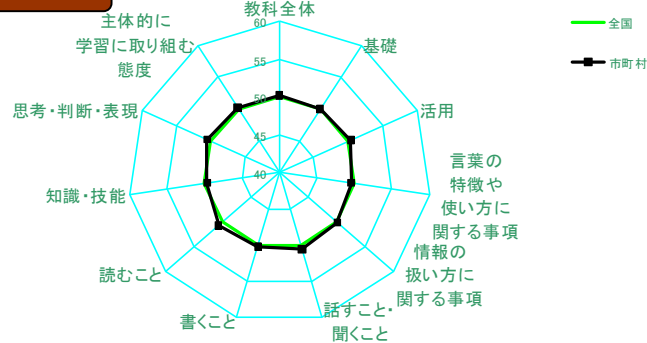
- 「基礎」「活用」とともに全学年で全国平均値を上回りました。
- 「基礎」にくらべて「活用」の方が上回る学年が多く見られます。

標準スコアによるカテゴリー間の比較

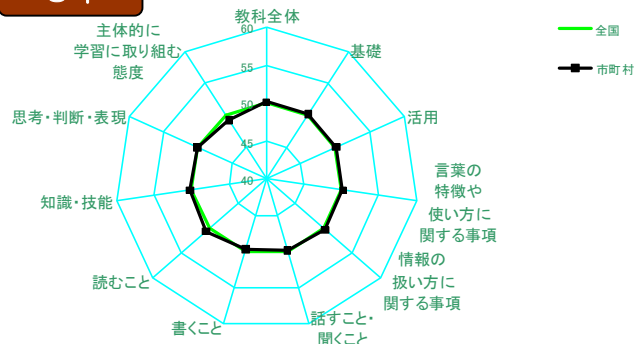
1年



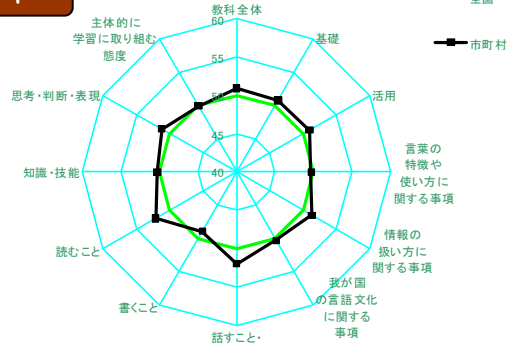
2年



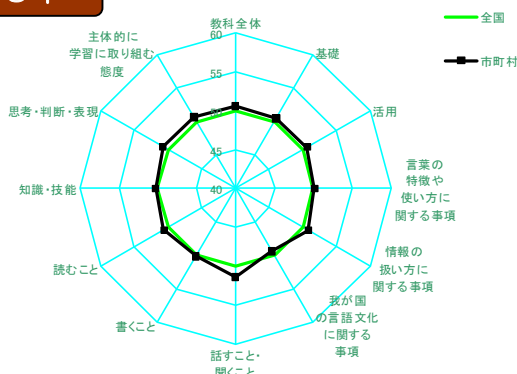
3年



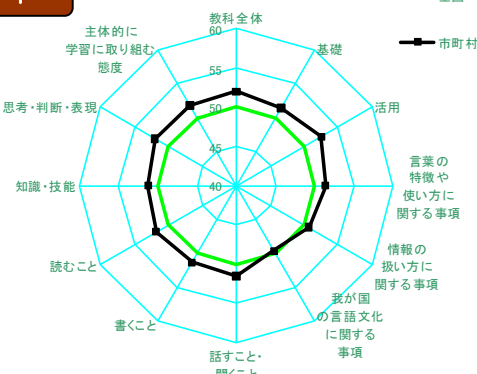
4年



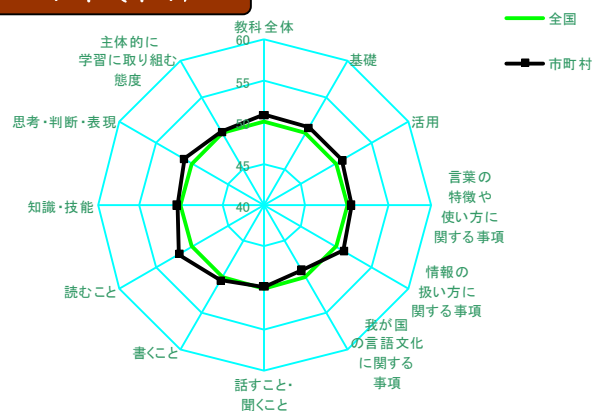
5年



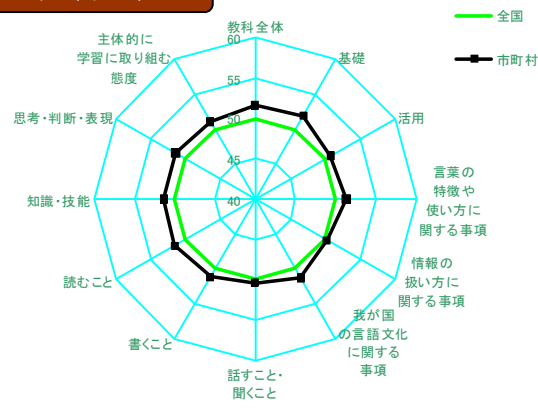
6年



7年 (中1)



8年 (中2)



- 「読む」に関するカテゴリーにおいて、全学年で全国平均値を上回りました。
- 「書く」に関するカテゴリーにおいて、ほとんどの学年で全国平均値を上回りましたが、4年のみ下回りました。

設問例から見てくると

○4年(提示された内容をもとに、注意する点を守り文章を作成する問題)

正答率が全国平均値より下回った問題です。

6 四年一組の新聞係は、クラスの人の活動を新聞で紹介することになりました。紹介する人に行った取材をもとに新聞にのせる文章を〈注意する点〉を守って書く問題です。

【取材メモ】

○四年一組の川口さん

花を植える活動に参加

どんな活動か

・場所：駅前広場の花だん
・毎週土曜日に集まって世話を
する。

始めたきっかけ

・姉にさそわれた。

川口さんの話

・先週、種をまいたので、
花が咲くのが楽しみ。
・クラスのみんなんも、
いっしょにやってほしい。

〈注意する点〉

- ①七行から、九行の間で書く。
- ②二つの段落に分けて書く。
- ③一つ目の段落には、紹介する人の活動の説明と、その活動をはじめたきっかけを書く。
- ④二つ目の段落には、紹介する人の話を取り上げ、その話に対するあなたの感想、またはクラスの人に呼びかける

【正答へのポイント】

・「段落」(文のまとまり)の意味を理解することが大切です。その上で、段落を改める際には、一マス下げるといふ形式的な技能を身につけることが必要です。

○8年(中2)(話し合いの参加者として、発言に対して条件に沿った提案をする問題) 無解答率が最も高かった問題です。

話し合い開始時に決まっていたこと

地域の子ども会で小学生と中学生で班を作って街歩き探検をすること
目的 実際に街を見て回り、小学生に自分たちが住む街をもっと好きになつてもらう

班の分け方 四つの班に分かれる。
一つの班Ⅱ小学生四人＋中学生二人

当日の予定

9:00 公民館集合
↑
街を見て回る
↓
11:30 公民館に戻る
(昼食…1時間)
↑
午後の予定未定
↓
15:00 解散

話し合いで決まったこと

街歩きの方法 地域でのアンケート調査結果「街の好きなところ」をもとに班ごとに異なるテーマを決めて街歩きする。

6 (3) 話し合いの参加者として、各班が見つけた街の魅力に関する情報をいつ、どのような方法で行うとよいか、具体的な提案を2つの条件にしたがって書く問題です。

条件1 いつ、どのような方法か具体的に提案すること

条件2 40字以上60字以内で実際に話すように書くこと

正答例 当日の午後、街の魅力を班ごとに一枚の大きな紙にまとめ、完成したものをみんなで見せ合い、情報を共有するとよいと思います。(59字)

「いつ」については、問題の中にヒントがあります。「どのような方法で」は、自分なりの考えをもつことが必要です。

● 提示文から情報を的確に理解し、自分の考えを書き表すという問題に共通して課題が見られました。

4年の問題の出題のねらいは、指定された長さで、段落の役割について理解し、話の内容を明確にして、事実を伝える文、事実、自分の考えを書くことです。8年(中2)の問題の出題のねらいは、他者の発言から適切な情報を得て、自分の考えをまとめることです。情報を的確に理解し、自分の考えの形成に生かし、表現する力が必要です。

次年度のステップアップにむけて

国語科の学力向上の視点

今は、情報化社会であるゆえ、
国語科でも文章の中から適切な
情報を拾い集めることが大事
でござる。



情報を的確に理解し、自分の考えを表現するために

「書くこと」の力を育成する上では、文章に含まれる情報を整理し、その関係を捉えて理解したり、自分の持つ情報を整理し、その関係を明確にして文章で表現したりすることが重要になります。

新学習指導要領をもとに、以下に示すとおり学年ごとに段階的に学習していきます。

①文章に含まれた情報を的確に理解するために

- 1・2年：共通、相違、事柄の順序などについて理解する。
- 3・4年：考えとそれを支える理由や事例、全体と中心などについて理解する。
- 5・6年：原因と結果などについて理解する。
- 7年(中1)：原因と結果、意見と根拠などについて理解する。
- 8年(中2)：意見と根拠、具体と抽象などについて理解する。
- 9年(中3)：具体と抽象などについて理解を深める。

②自分の考えを明確にし、表現するために

- 1・2年：語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるようにする。
- 3・4年：自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にする。
- 5・6年：簡単に書いたり詳しく書いたり、事実と感想、意見とを区別して、引用したり、図表やグラフなどを用いたりする。
- 7年(中1)：根拠を明確にする。
- 8年(中2)：説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりする。
- 9年(中3)：表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりする。

「書くこと」の力を育成するために・・・・・・・・・・・・・・・・

学校では、学年ごとに段階的な学習をする上で、教材文の活用だけでなく具体的な言語活動に取り組んでいきます。

例えば「報告文や観察記録など、事実をもとに考えたことを書く」「日記や手紙で思ったことや伝えたいことを書く」「詩や物語、俳句など、感じたことや想像したことを書く」「関心のある事柄について批評する」「行事案内やお礼文などを紙や電子メールで、相手や媒体を考えて書く」など、情報をもとに具体的な相手を想定し、目的意識を持って言語活動に取り組んでいきます。

・・・・・・・・・・・・・・・・

(まとめ)

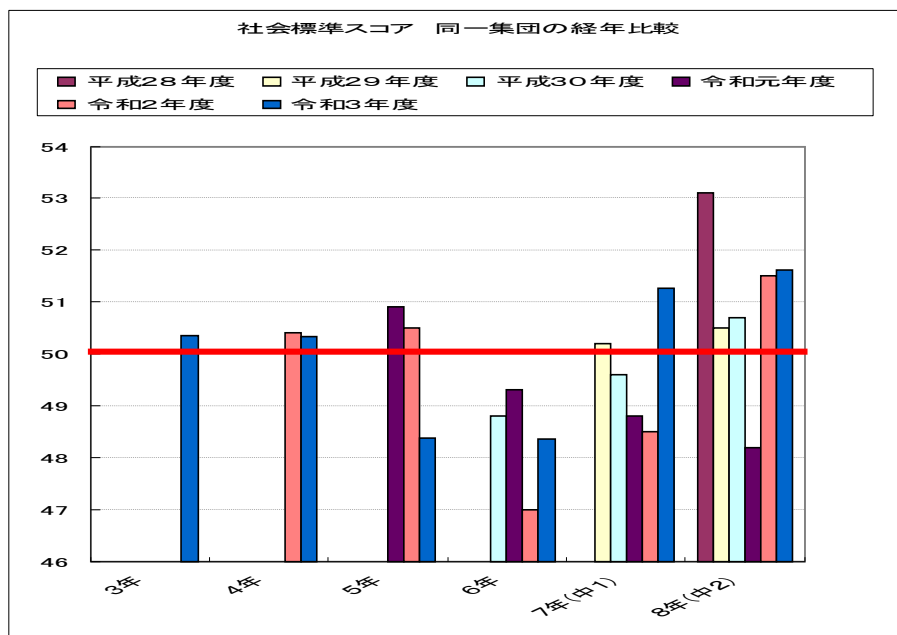
「書くこと」に必要な資質・能力を伸ばすために、具体的な言語活動に取り組みながら、文章に含まれる情報を的確に理解し、適切に表現するための学習に取り組んでいきます。

算面学力調査〈概要〉社会

※標準スコア…全国平均値の正答率を50としたときの値のことです。

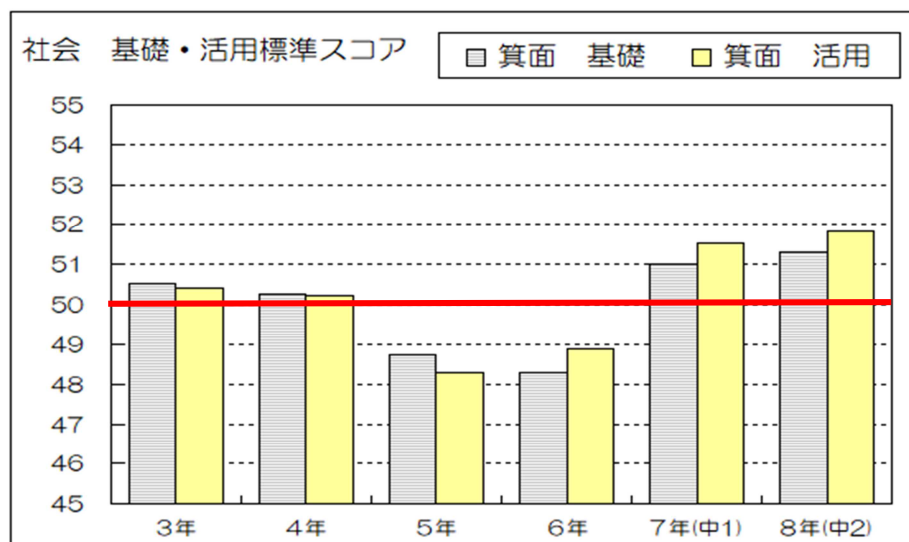


学年ごとの標準スコア



- 3年、4年、7年(中1)、8年(中2)は、全国平均値を上回っています。
- 同一集団の経年比較で、6年、7年(中1)、8年(中2)は、昨年度を上回っています。(3年は昨年度無し)

基礎と活用(思考力・判断力・表現力)の状況



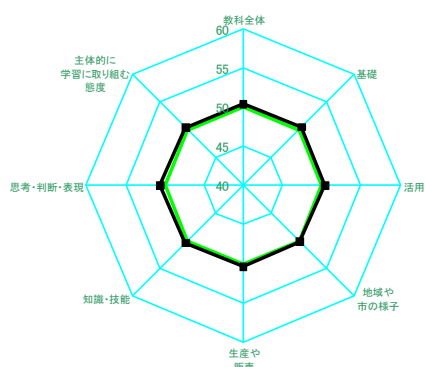
昨年度と同様に全国平均値を上回っている学年とそうでない学年があるよ。



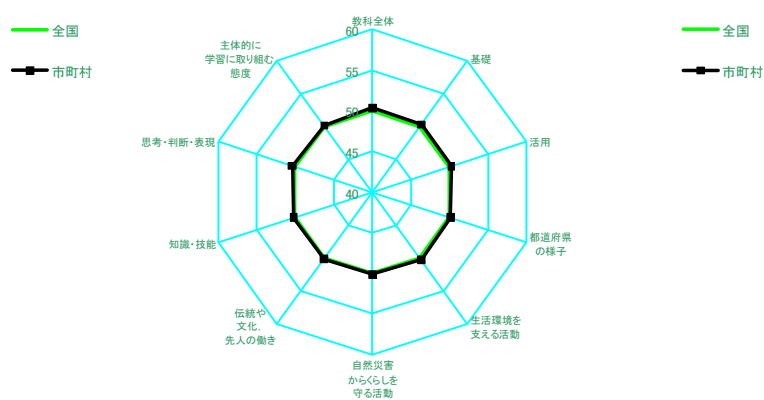
- 「基礎」、「活用」共に3年、4年、7年(中1)、8年(中2)で全国平均値を上回っていますが、5年、6年で課題が見られます。
- 5年以下では、「基礎」の力が「活用」の力を上回り、6年以上では、「活用」の力が「基礎」の力を上回る傾向が見られます。

標準スコアによるカテゴリー間の比較

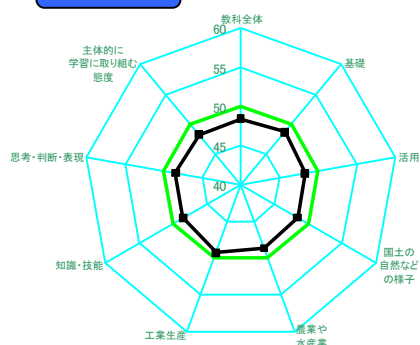
3年



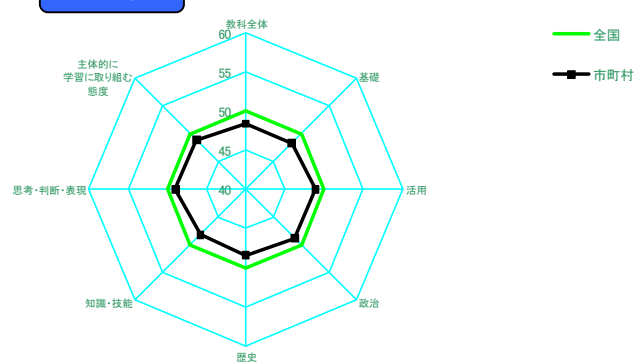
4年



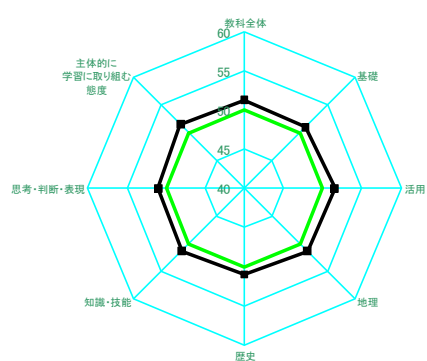
5年



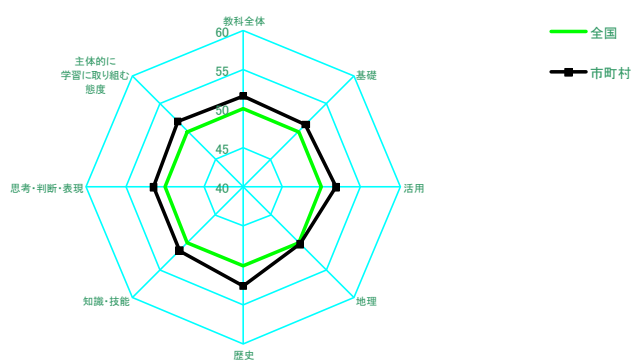
6年



7年（中1）



8年（中2）



- 3年…すべての項目で全国平均値を上回っています。
- 4年…すべての項目で全国平均値を上回っています。
- 5年…すべての項目で全国平均値を下回っています。
- 6年…すべての項目で全国平均値を下回っています。
- 7年（中1）…すべての項目で全国平均値を上回っています。
- 8年（中2）…すべての項目で全国平均値を上回っています。



設問例から見てくこと

※以下の2つの問題は市の正答率が全国正答率を下回った問題です。

6年 天皇中心の国づくりについて

奈良時代の文化に関する2つの資料を読み取り、求められた形式に合わせ、必要な言葉を用いて記述する問題。

(問) 奈良時代について調べてまとめた右のノート中の **A** にあてはまる内容を、「西アジア」という言葉を使って書きましょう。

○一つ一つの資料からわかることを関連付けて考え、表現してみよう。

(正答例) 西アジアの文化のえいきょうを受けていた

①地図の資料から、中国を通じて日本と西アジアがつながっていたことを読み取る。

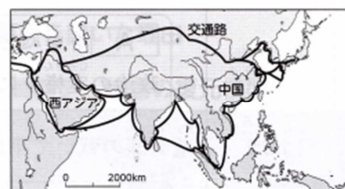
②写真の資料から、西アジアの文化が日本に伝わっていたことを読み取る。

ノート

奈良時代の文化

●奈良時代には、遣唐使とよばれる使者が中国に送られていた。

●右の地図にあるように、当時の中国と西アジアは交通路でつながっていた。



●東大寺の正倉院におさめられている宝物には、右の資料のように **A** 。



西アジア(今のイラン)で出土した水差し



正倉院におさめられていた水差し

7年(中1) 世界の諸地域について

右の会話文をもとに、スラムができた経緯が分かる資料の組み合わせを1～4から1つ選ぶ問題。

○考えの根拠となる資料を適切に選択しよう。

(正答) 4 A・D

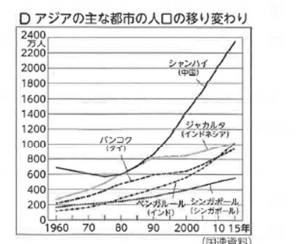
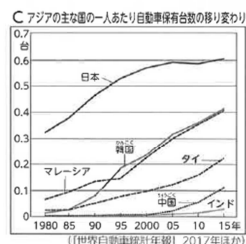
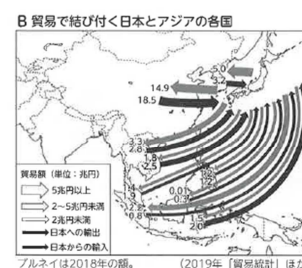
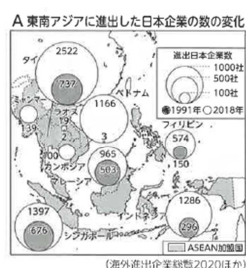
①会話文の3行目から「都市の人口が増加している国がある」ことが分かる。

→アジアの主な都市の人口の移り変わりを示している資料Dが根拠となる。

②会話文の6行目から「東南アジアの国々は日本などの外国企業を積極的に誘致した」ことが分かる。

→東南アジアに進出した日本企業の数の変化を示している資料Aが根拠となる。

まこ「スラムは建物が密集していて、生活環境がとても悪く見えます。」
先生「スラムがアジアの都市部で多く見られるようになった理由を考えましょう。」
けん「1970年代から、急激に都市の人口が増加している国がありますね。」
先生「なぜ、都市に人口が集まったと思いますか。」
けん「都市部が発達して、工業化が進み、仕事を求めて集まったのではないですか。」
先生「そうですね。東南アジアの国々は、積極的に日本などの外国企業を誘致し、工業化を進めました。急速に工業化が進み、人口が都市に流入しました。」
まこ「流入する人口に都市環境の整備が追い付かなかったんですね。」



1 A・B 2 B・C 3 C・D 4 A・D

社会科では、多くの資料(史料)の考察を行い、論理的に考えを述べる力が求められています。資料(史料)を比較したり関連づけたりして、今持っている自分の知識と結びつけながら「何がわかるか」「どんなことが予想されるか」などを考えられるような授業づくりを進めます。

次年度のステップアップにむけて

社会科の学力向上の視点

地図帳や資料集などはいつも身近においておきたいね。疑問に思ったことがすぐに調べられるよ！



社会科の特質に応じて、効果的な学習を展開するために

1 社会科における育成すべき3つの資質・能力

(各校種の段階や分野ごとの内容に応じて高めていきます。)

- ①地理的環境、現代社会の仕組みや働き、歴史や伝統・文化を通して社会生活について理解を図るための知識と、資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめる技能。
- ②社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察し、課題の解決に向けて構想・選択・判断したり、それらをもとに説明や議論する力。
- ③よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度、世界の国々の人々と共に未来の社会を形成していく一員としての自覚。

2 具体的方策

- ①学習の主体である子ども自らが学習の対象に興味・関心や問題意識を持って問いを見出し、主体的に課題を迫及したり解決したりする学習を展開します。
- ②課題解決に向けて、予想や学習計画、迫及の方法を考え吟味し合うなど、解決までの見通しを持つ学習過程を設定します。
- ③提示する資料について、どこに注目し、何を読み取って何を考えるのかといった「視点」と、それらの情報を比較するのか関連付けるのかなどといった「方法」とを明確に意識させながら指導します。
- ④情報を収集したり、読み取ったり、まとめたりする学習活動において、ICTを効果的に活用する場面を設定します。
- ⑤他者との話し合いなどを通して、自分の考えをより深めたり、多角的な視点で物事を捉えたりできるように、対話的な学習活動を効果的に取り入れます。
- ⑥学習したことを振り返り、学習成果や自己の変容を自覚したり、新たな課題を見出したりすること、さらに、学んだことを基に自らの生活を見つめたり、社会生活に生かしたりする場面の充実を図ります。

■まとめ

社会科における資質・能力の育成を目指して、子どもが自ら学びに向かい、他者との対話的・協働的な学び合いによってより深い学びが実現されるよう授業改善を図っていきます。また、社会的な見方（視点）・考え方（方法）を働かせながら社会的事象や物事を捉えられるよう資料や発問を精選・吟味していきます。さらに、自己の学びが次の新たな学びや実社会・実生活に生かせるよう、学びの振り返りを大切にしていきます。

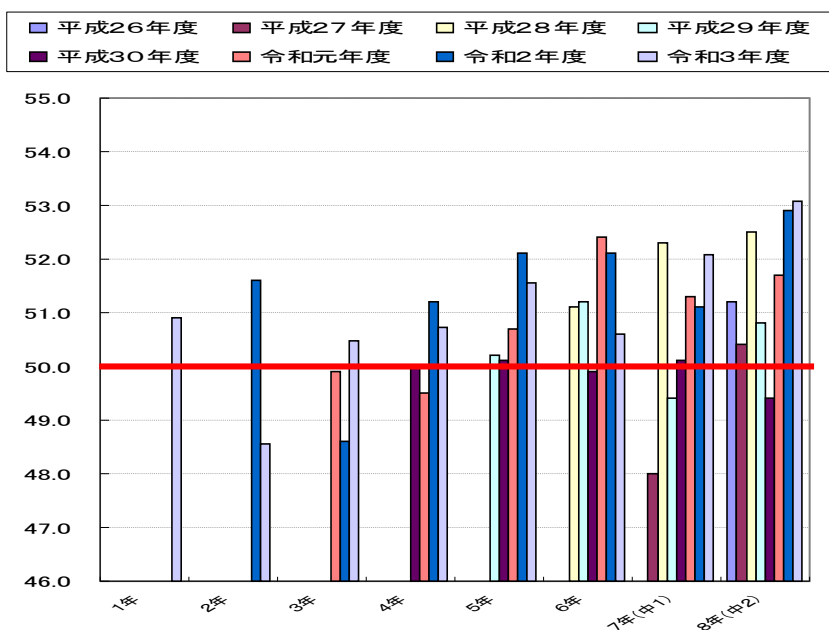
算面学力調査〈概要〉算数・数学

※標準スコア…全国平均値の正答率を50としたときの値のことをごさる。



学年ごとの標準スコア

算数・数学標準スコア 同一集団の経年比較

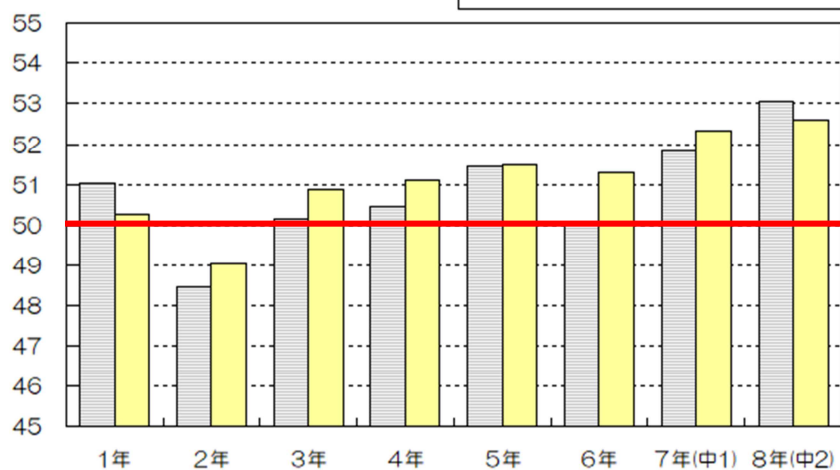


- 1年及び3年以上の学年は、全国平均値を上回っています。2年は全国を下回る結果となっています。
- 経年比較では、3年・7年(中1)・8年(中2)が令和2年度と比べて伸びを見せています。

基礎と活用(思考力・判断力・表現力)の状況

算数・数学 基礎・活用標準スコア

□ 算面 基礎 □ 算面 活用



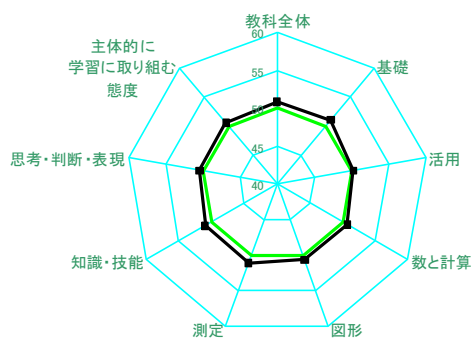
全国と比較して「基礎」と「活用」の力がどちらも定着しているね。



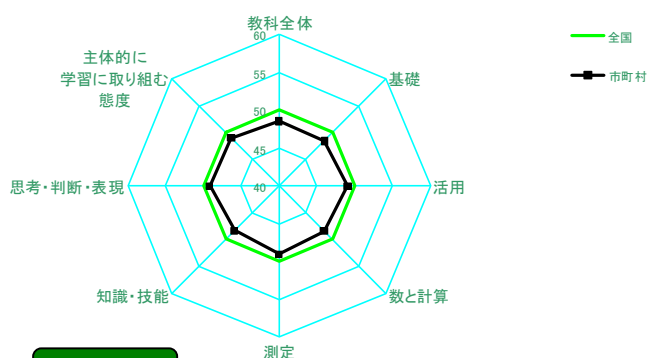
- 多くの学年で「基礎」および「活用」が全国平均値を上回っています。中でも、7年(中1)・8年(中2)の「基礎」及び「活用」は2～3ポイント程全国平均値を上回っています。

標準スコアによるカテゴリー間の比較

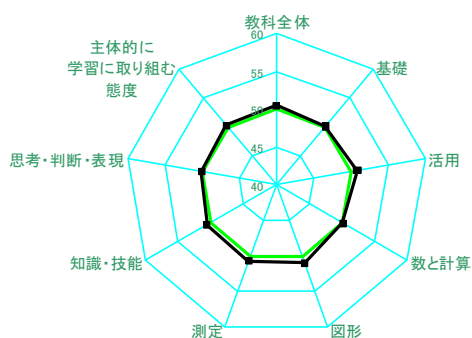
1年



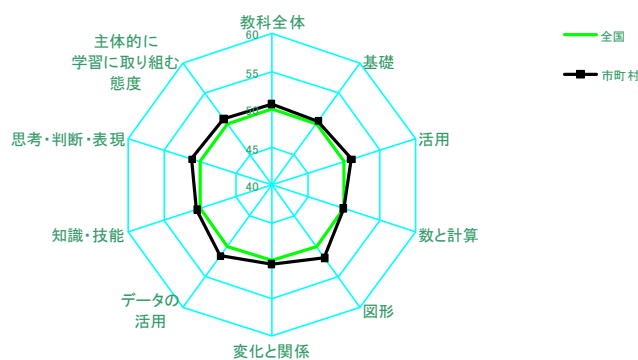
2年



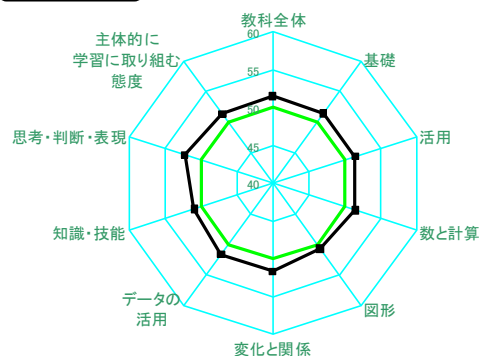
3年



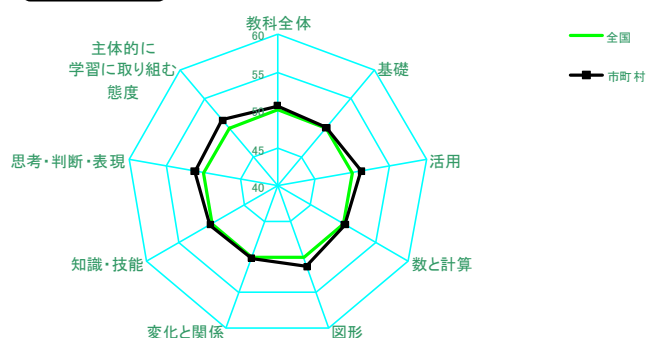
4年



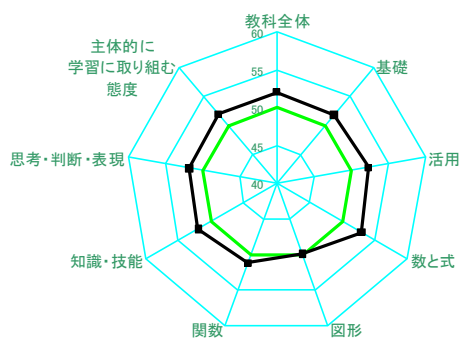
5年



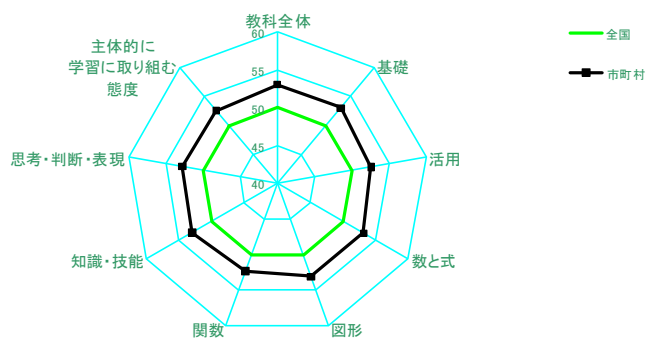
6年



7年（中1）



8年（中2）



- ほとんどの学年が全項目で全国平均値を上回っています。
- 2年では、全項目で全国平均値を下回っています。とくに領域については「数と計算」、分類については「基礎」に課題が見られます。

設問例から見てくると

【全国正答率より低い問題】

2年 問題 4 (6)

(短答・3けた－2けた＝2けた(波及的繰り下がりあり)の計算ができる)

$$103 - 46 =$$

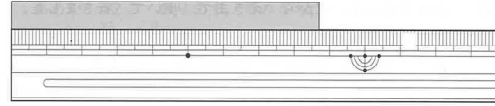
《正答》57

○この問題では、引き算の繰り下がりの計算をする時、十の位から繰り下げて計算することができず、百の位から2桁にわたり繰り下げて計算する必要があります。

2年 問題 11

(短答・ものさしのメモリの読み取り方を理解している)

30 cmのものさしで、下のテープの長さをはかりました。テープの長さは何cm何mmですか。 《正答》8 (cm) 7 (mm)



○この問題では、ものさしに数字の目盛りがないため、長さを読み取ることが難しいです。5 cmや10 cmの区切りを有効的に活用する必要があります。

5年 問題 20 (3)

(記述・求め方を言葉や式で記述する問題)

Aのふくろには10円玉だけが、Bのふくろには100円玉だけがそれぞれたくさん入っています。Aのふくろ全体の重さは810 gで、Bのふくろ全体の重さは120 gです。どちらのふくろに入っている硬貨の金額の方が大きいですか。また、そのように考えたわけを、〇〇さんの求め方を参考にして、言葉や式を使って説明しましょう。ただし、ふくろの重さは考えなくてもよいです。

1まいの重さ・・・10円玉4.5 g、100円玉4.8 g

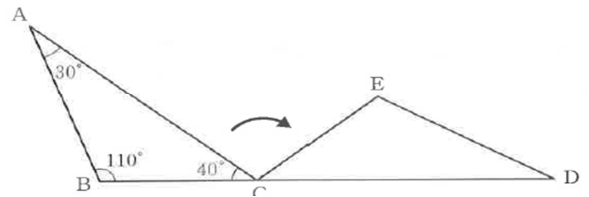
《正答》Bのふくろ 《求め方》省略

○問題では、前の問題で〇〇さんの求め方が例示されています。その考え方をもとに 응용して考えることが求められています。また、「ふくろに何枚入っているのか」「その枚数を元にふくろの金額を求める」「ふくろの金額を比べる」という3行程について筋道立てて考え、説明する力が求められるため、9割近くが誤答や無解答という結果になりました。

7年(中1) 問題 14 (3)

(短答・ことがらの特徴を数学的に説明する問題)

次の図のように、3つの角が 30° 、 110° 、 40° の $\triangle ABC$ と、それと合同な $\triangle DEC$ があります。また、3点B、C、Dは一直線上にあります。



$\triangle ABC$ を、点Cを回転の中心として時計回りに回転移動させて $\triangle DEC$ にぴったり重ねます。このとき、 $\triangle ABC$ を時計回りに何度回転させればよいですか。

- ① 40° ② 100° ③ 140° ④ 180°

《正答》③ 140°

○誤答としては、②④が多かったです。実際の三角形を考え、どのように動いているのかを想像する力が必要になってきます。

生活の中で算数・数学に触れ、活用することが大切

今回のステップアップ調査では、多くの問題の正答率が全国を上回っていますが、一部の知識や技能を問う問題では全国と比べ正答率が低いという結果となりました。算数・数学の学習の定着のため、日常生活や他教科の学習でも活用していこうとする態度が大切です。

また、問題解決にあたっては、答えを求めるだけでなく、答えに至るまでの自分の考えや友だちの考えを算数・数学的な表現を用いて表すことも大切です。

日常生活で算数・数学を生かせるようになるとうれいごさる。



次年度のステップアップにむけて

算数・数学科の学力向上の視点

知識や技能の定着を図り、思考力・判断力・表現力を育てるために

学習指導要領では、生きて働く『知識・技能』、未知の状況にも対応できる『思考力・判断力・表現力』、学びを人生や社会に生かそうとする『学びに向かう力・人間性』という3つの資質・能力を育成するために、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業づくりを進めています。今回のステップアップ調査の結果を見ると、全国的にも『思考力・判断力・表現力』を問う問題において正答率が低い傾向があり、3つの資質・能力の中でもとくに『思考力・判断力・表現力』をいかに育てていくかが、今後の算数・数学科の学力向上の重要な視点と言えます。

1 主体的な学びに向かうための問題提示・学習課題の工夫、算数・数学と生活との結びつけ

- 「なんでだろう」「解いてみたい」「友だちと一緒に考えたい」と思うような提示の仕方や課題設定を工夫します。(迷う場面や情報過多・不足の場面の設定、単元全体を通してストーリー性をもたせた課題を設定する等)
- 身近な日常生活の場面を問題に取り入れ、生活の中で算数・数学を具体的に活用させるようにします。
- 具体物を用意したり、問題の場面を実際に行ってみたりする、ICTを活用した提示などイメージしやすくさせます。
- 子どもたちの興味関心を引くような問題などから、自ら課題を見出す力を育てます。

2 自分の考えを持つための見通し、考えを深めるための友だちとの対話

- 問題に際して、既習事項が活用できないか、これまでとの問題との違いは何か等に着目させ、「■ ■の時の問題と似ている」「答えは■ ■ぐらいになるだろう」「■ ■すれば解けるのではないか」等の見通しをもたせます。
- 見通しをもとに、既習の知識や技能と関連付けながら、根拠をもって筋道立てて考えたり、論理的に考えたりして、自分なりの考えを持たせます。
- 自分なりの考えを友だちと伝え合う中で、自分と友だちの考えの共通点や相違点に着目させ、必要な情報を抜き取ったり、比較検討したりして、より自分の考えや理解を深めます。
- 複数の解法から多様な考え方や捉え方を知り、様々な角度から検討することで問題に応じたよりよい解き方に迫れるように働きかけます。

3 自分の考えを算数・数学的な表現でのまとめ、ふりかえり

- 式、計算によって求めた過程や答えの意味するものは何かを言葉・図・式で表現することを行き来しながら理解を深め、知識や技能の定着を図っていきます。
- 本時の授業の中で、自分はどんなことがわかったのかふりかえります。それによって、数学的な見方・考え方を働かせ、次の学びに生かしてみようという意欲を高めます。
- 算数・数学で培った思考をもとに、他教科や日常生活で関連付けられるようにします。

(まとめ)

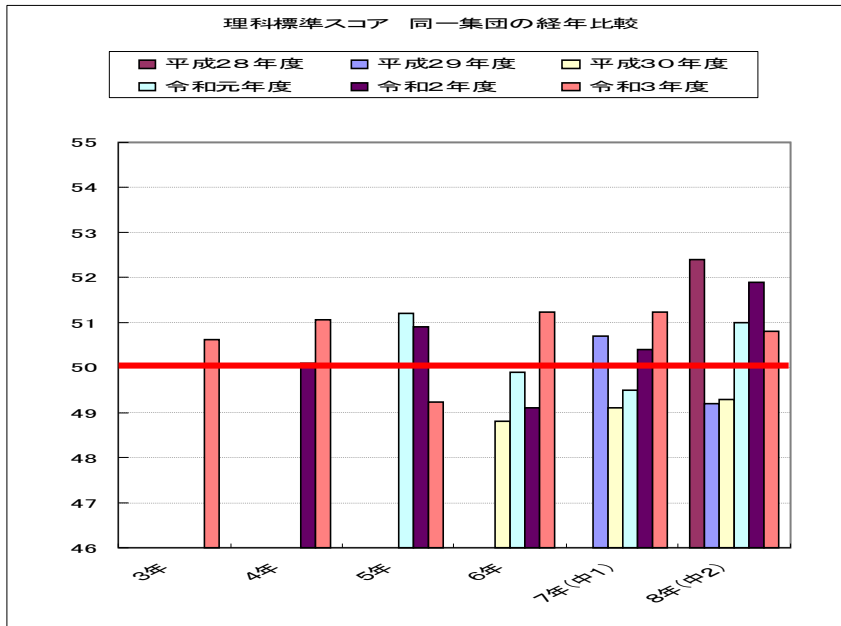
- 「自ら課題を見出す」「見通しをもち、筋道を立てて考える」「学び合いで考えを深める」「表現する(まとめ・ふりかえり)」「数学的な見方・考え方を働かせる」「日常生活と結びつける」ことを大切にしたい授業をし、知識や技能の定着を図り、思考力・判断力・表現力等を育てていきます。

箕面学力調査〈概要〉理科

※標準スコア…全国値の正答率を50としたときの値のことです。

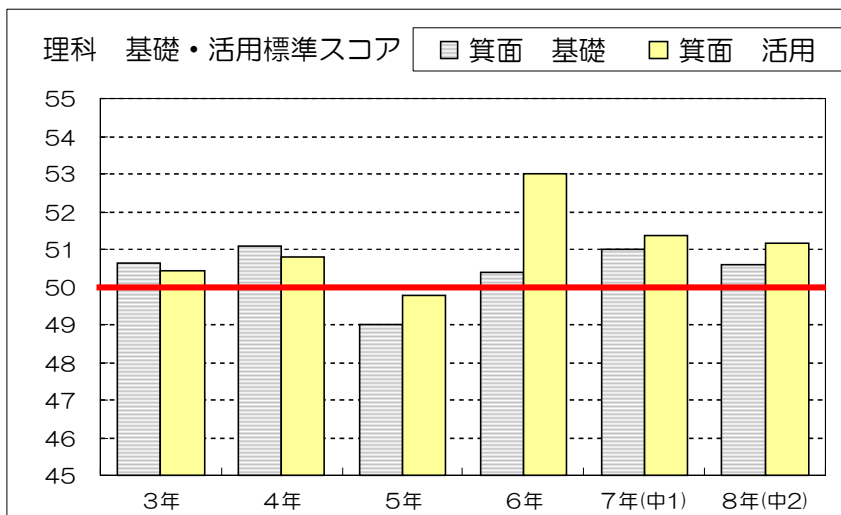


学年ごとの標準スコア



- 5年以外は全ての学年において、全国平均値を上回っています。
- 同一集団の経年比較で、5年と6年（中2）が昨年度を下回っています。（3年は昨年度無し）

基礎と活用（思考力・判断力・表現力）の状況



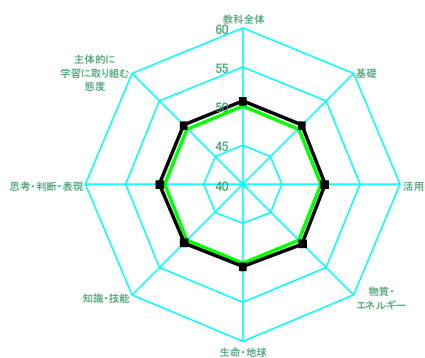
5年から8年（中2）は、基礎の力より活用の力の方が高いね。5年以外は、基礎も活用も全国平均を上回っているね。



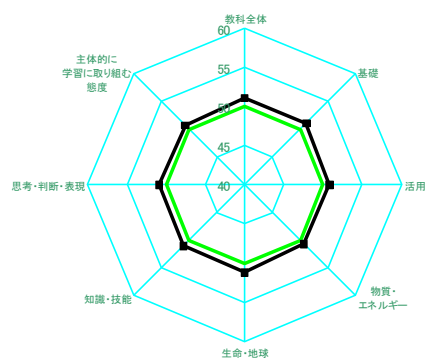
- 「基礎」「活用」どちらも5年以外、全国平均値を超えており、5年がどちらも全国平均値を下回っています。
- 特に、6年の「活用」が全国平均値を大きく上回っています。

標準スコアによるカテゴリ間の比較

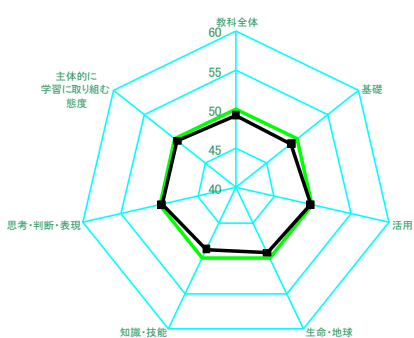
3年



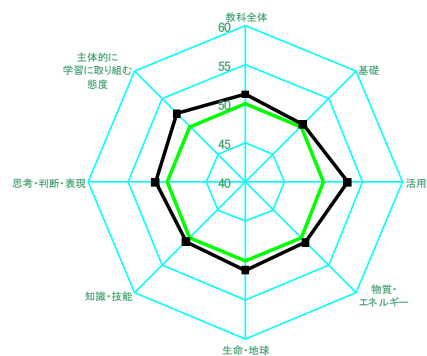
4年



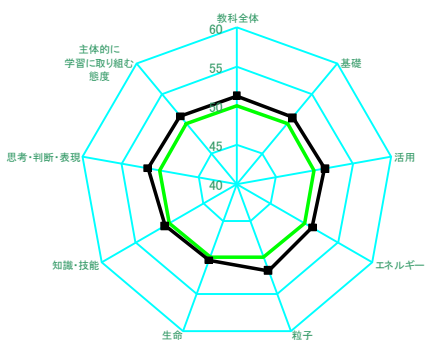
5年



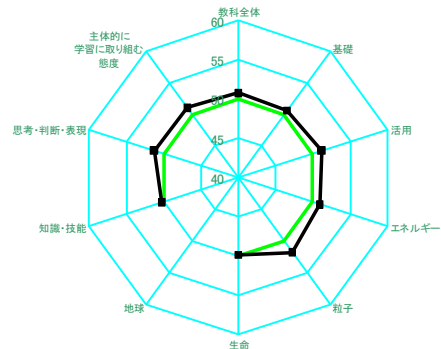
6年



7年（中1）



8年（中2）



※「地球」に関する問題は、未実施です。

- 3年、4年、6年、7年（中1）、8年（中2）は全ての観点において、全国平均値を上回っています。
- 5年は多くの観点において、全国平均値を下回っています。
- 7年（中1）の全ての観点において、全国平均値を上回っています。
- 8年（中2）の全ての観点において、全国平均値を上回っています。

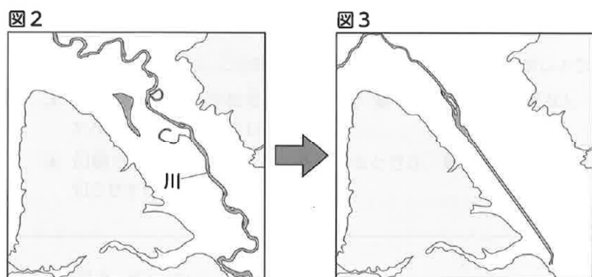
設問例から見てくると

(小学校)

正答率が低かった5年「生命・地球」領域「流れる水のはたらき」の「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の力を問う活用問題です。

蛇行した河川をまっすぐ流れるようにした理由について、どこに、どのような危険があったかをふまえて記述する問題です。

図2のように、とても曲がりくねった川が、ある年に、川の流れる場所を変えて、図3のように、まっすぐにする大工事が行われました。このような工事が行われたのはなぜだと思いますか。川が曲がりくねっていると、どこにどのような危険があるかがわかるように、その理由を書きましょう。



正答例

「雨がふって川の水が増えたと、川の曲がったところの外側がけずられて危険だから。」

(中学校)

正答率が低かった7年（中1）「エネルギー」領域「光の性質」の「思考・判断・表現」の力を問う基礎問題です。光の屈折を利用している道具を4つの選択肢の中から1つを選択する問題です。

光の性質である「反射」「屈折」の違いの理解が問われました。

問題

【実験】

- ① 図1のように、角度の目もりをつけた円形の台紙を水平に固定し、その円形の台紙の中心と半円形ガラスの円の中心Oを合わせて置いた。
- ② 光源装置から半円形ガラスの中心Oに向けて光を当てたところ、反射光と屈折光が観察された。
- ③ 図2のように、光源装置をAからイに動かして入射角を変え、反射角と屈折角を記録した。

図1

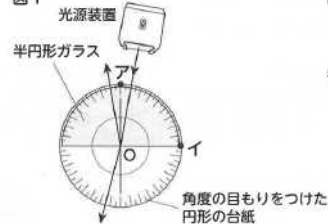
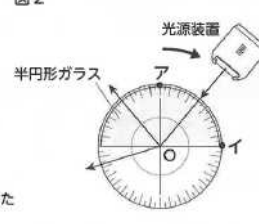


図2



実験で調べた光が屈折する性質を、主に利用しているものは何ですか。次の1～4から1つ選びなさい。

- 1 光電池
- 2 シャ光プレート
- 3 ルーペ
- 4 鏡

小学校の問題は、流れる水の働きにおける浸食作用について正しく理解し、図と合わせて自分の言葉で記述する必要があります。解答を正しく記述できていた児童は、約3人に1人という低い割合であり、全国正答率よりも低い正答率でした。設問では「どこにどのような危険があるかわかるように、その理由を書きましょう」とありますが、どのような危険性があるかを理解し、記載できていても、どこに危険性があるかということが十分に説明できていないという誤答が4割以上を占めました。

設問をしっかりと理解し、どのような回答をすることが必要かということを把握したうえで問題に取り組むことが重要です。

中学校で課題として取り上げた問題は、選択式の問題であるにも関わらず、正答率が約2割という結果となりました。誤答の中で「④鏡」と回答した割合が全体の4割を占めたことから、光の性質である「反射」と「屈折」の違いを正しく理解できていなかったようです。科学と日常の生活を結びつけて考える力をどのように育てていくのが課題です。

次年度のステップアップにむけて

理科の学力向上の視点

学習したことを実生活や身近な自然事象と結び付けることが大切でござる。



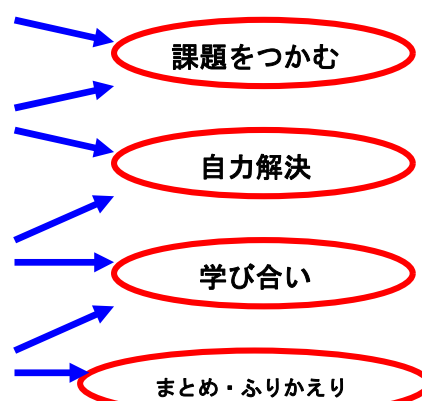
子どもが主体的に解決していく学習活動をおこないます。

「ふしぎ」をとき明かす学習指導の充実

児童生徒一人ひとりが自然・科学の事象に対して、問題解決を「自分事」として捉え、多くの体験活動をふまえた理科の学習を進めることができるようにしていきます。

【主な学習の流れ】

- ①自然・科学との出会いを大切にしていきます。
- ②体験活動のなかで、子どもたちの中から「なぜだろう？」という疑問、課題が表れてきます。課題の解決に向けた予想や仮説を立てていきます。
- ③予想や仮説を検証するため、子どもたちは目的がはっきりとした実験、観察を主体的におこないます。
- ④実験、観察の結果の整理、考察をおこない課題の解決につなげます。わかったことは理科の言葉を使ってまとめます。学習したことを活用する時間でさらに深めていきます。



●正しい知識を生活の中にあてはめる「活用力」。問題から答えを導き出す「思考力」。

小学校の問題のポイントは、流れる水の働きについて正しい理解をするだけでなく、実際の地形等と照らし合わせながら、自分自身の言葉で表現する力です。局部的な事象や現象の理解にとどまらず、結果として全体にどのような影響を与えるのかを考えることが重要となります。

また、今回の問題では、工事前と工事後の図が示されていることから、工事前後での川の形の变化に注目することで、蛇行した部分が減少していることに気づくことができます。蛇行した箇所を放っておくことの危険性と、まっすぐにすることによって生まれる利点を考えることで、正しい回答を導くことができます。日頃から「なぜ」「どうして」という疑問をもち、答えを予想しながら取り組む習慣をつけましょう。

●学習内容を日々の生活の中で感じ取る力を

7年（中1）の問題では「オリンピック」や「リサイクル」、8年（中2）の問題では「ウイルス」や「懐炉（かいろ）」が取り上げられており、世相や生活を反映させた問題がめだちました。理科で学習した内容は、自分たちの生活にどんな現象として現れたり、どのような効果をもたらしているのか等、日常生活と結びつけて考える力、日常生活で実感する力が求められています。授業で学んだ内容や知識を自身の生活と照らし合わせて考える習慣を身につけ、理科を身近な「もの」として感じながら学習を進めていきましょう。

（まとめ）

■自然・科学の事象と出会う体験活動を通して、気付きや発見、疑問を大事にしていきます。感じたことから、一人ひとりが知識・学習したことを関連づけ、見通しをもって観察や実験を行い、結果を分析して解釈するなど科学的に探求する学習を充実していきます。

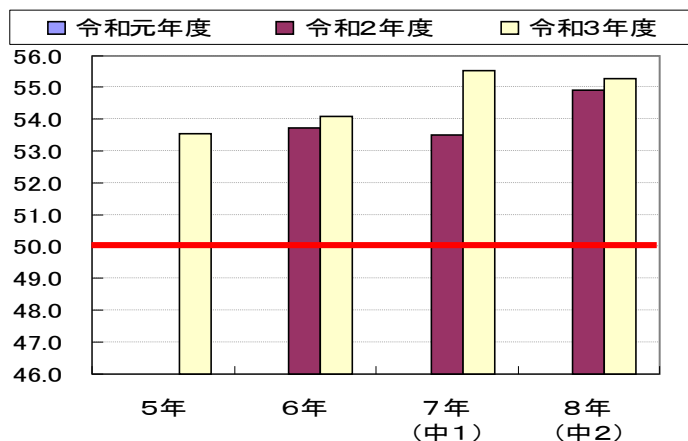
箕面学力調査〈概要〉英語

学年ごとの標準スコア

※標準スコア…全国平均値の正答率を50としたときの値のことです。



英語標準スコア 同一集団の経年比較

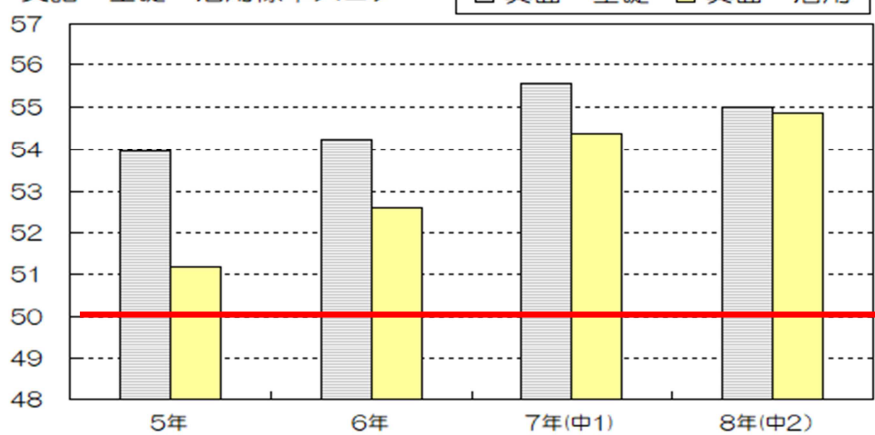


箕面市の児童生徒の英語力は高い水準で推移しており、今年度も同様の傾向です。

- 5年～8年(中2)はいずれも全国平均値より高い結果となっています。
- 7年(中1)は6年時より大幅に上がっており、更に全国平均値と比べても5ポイント以上高い結果となっています。

基礎と活用(思考力・判断力・表現力)の状況

英語 基礎・活用標準スコア



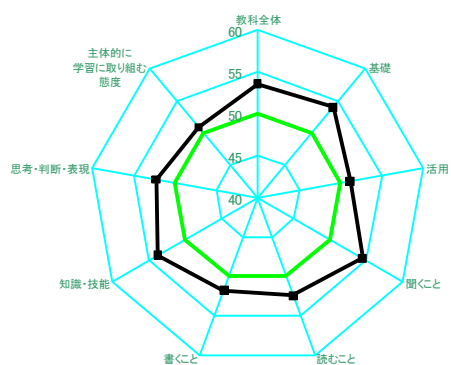
どの学年も「基礎」「活用」ともに全国平均値を上回っているね。学年が上がるにつれて「基礎」と「活用」の差がなくなっているよ。小学校低学年から継続して学習している効果が見られるね。



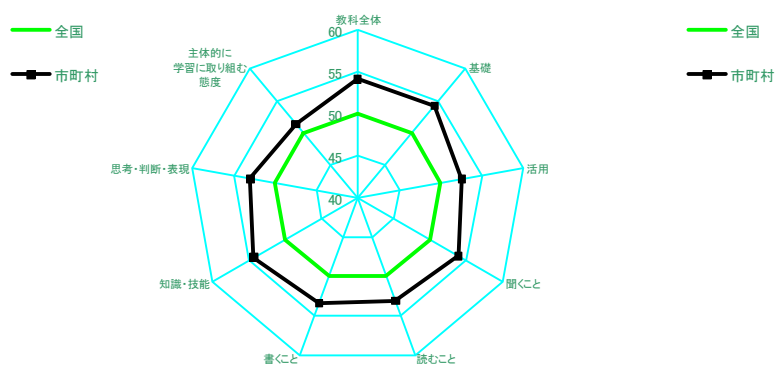
- どの学年も「基礎」「活用」ともに全国平均値を上回っています。とくに「基礎」は全国平均値を大きく上回っています。

標準スコアによるカテゴリー間の比較

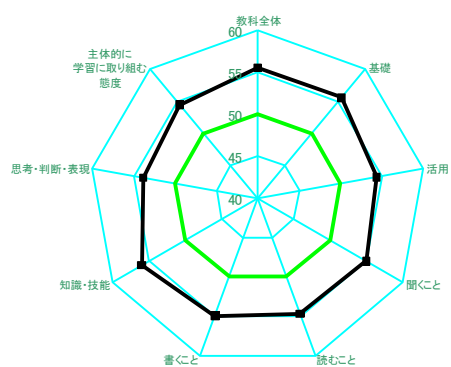
5年



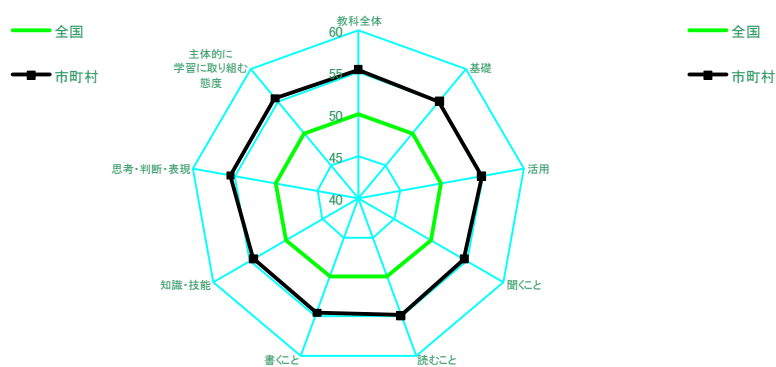
6年



7年（中1）



8年（中2）



- 全学年全項目で全国平均値を上回っており、大変良好と言えます。
- 7、8年（中1、中2）はどの項目もバランス良く全国平均を上回っています。

設問例から見てくること

●6年（リスニング問題）

「飼い猫を探している場面の対話を聞き、会話全体を理解し概要を捉える問題」
正答率が最も低かった問題です。

(リスニング放送文)

A: Oh, no! Where is Poppy?

B: Poppy? Who is Poppy?

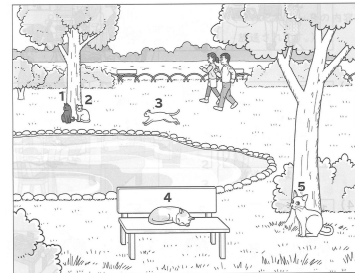
A: She is my cat. She is white, and she can run fast.

B: I see. Oh, look! Two cats are under the tree.

A: Oh, yes! That's Poppy. Thank you very much.

Question: Where is Poppy?

(正答) 2



猫の居場所の情報は聞き取れているが、猫の色の情報は聞き取れていない、猫の色の情報は聞き取れているが、猫の居場所の情報を聞き取れていないなど、与えられる情報が複数になると誤答が増える傾向にあります。

リスニング問題では、聞き取る前に場面や状況を把握する必要があります。「あてはまるネコ」を選ぶ問題なので、1～5のそれぞれのネコの様子や特徴について確認し、複数の情報が必要であることを理解しなければなりません。日頃から、「何のために聞くのか」「どんな情報が必要か」を意識して聞くことが大切です。

●8年（中2）

「メールを読み、その内容をふまえて英文を完成させる問題」
無答率が最も高かった問題です。

Hi Bill,

*Thank you for your e-mail. We are all fine. Lucy is fine, too. We are happy because your host family is very kind to you. School life in Japan is interesting. I *was surprised to know that students (). I can't *believe it because we *never clean our school ourselves in our country. I hope you will enjoy your life in Japan. See you!

Emily

(注) *Thank you for ～. ～をありがとう。 *be surprised to～ ～して驚く

*believe 信じる *never 決して～ない

()内に入る適切な英文を3語以上の適切な英語で答える問題

(正答例) clean their school

まとまりのある英文の空白部分に当てはまる英語を答える問題では、まず、英文全体の内容を掴むことが大切です。この問題では、空白部分の次の文に、「私は『それ＝空白部分』が信じられない」とあり、理由は「私たちの国では、自分たちで学校を掃除をしないから」と書かれています。従って、『それ＝空白部分』が「学校を掃除すること」だと理解できます。

日ごろからまとまりのある英文に慣れ親しみ、大意をつかむ力を育む必要があります。また、「目的」「場面」「状況」に応じて、話したり書いたりする活動に取り組んでいきます。

英検 IBA の結果について

令和3年度、英検 IBA における、英検3級レベル相当以上の英語力を有する生徒（中学3年生）の割合は74.9%でした。前回の英語教育実施状況調査の全国平均（44.0%）を大きく上回っています。

次年度のステップアップにむけて

英語科の学力向上の視点

9年間を通して…

「目的」「状況」「場面」を設定し、「英語を使う必然性」がある授業づくりを進めます。また、複数ALTとのティームティーチングの機会を生かし、主体的・積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする子どもを育成します。

■小学校低学年（1、2年生）外国語活動 「慣れ親しむ」

歌やゲーム、体を使う等体験的な活動を通して、「聞くこと」「話すこと」に慣れ親しみます。

■小学校中学年（3、4年生）外国語活動 「伝える」

自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な英語の語句や基本的な表現を用いて伝える活動に取り組みます。

■小学校高学年（5、6年生）外国語科 「伝え合う」

日常生活に関することや身近で簡単な事について、自分の考えや気持ちなどを基本的な語句や表現を用いて伝え合う活動に取り組みます。ものや写真を使ったプレゼンテーションにも取り組みます。十分に慣れ親しんだ英語の語句や表現については、「読むこと」「書くこと」に取り組みます。

■中学校英語科・中学校コミュニケーション科 「つながる」「発信する」 （英語科）

小学校での学びを生かし、身近なことや、関心のある話題について、話す内容を予め準備することなく、英語で会話する活動に取り組みます。また、ニュースや説明文、データ等の情報を読んだり聞いたりし、気づいたことや自分の考え等を英語で効果的に表現する活動に取り組みます。

（英語コミュニケーション科）

小学校で学んだこと、週4時間の外国語科（英語科）で学習したことを生かし、興味・関心のあることについて、調べたり、情報を得たりしたことをもとに英語で発信する活動に取り組みます。

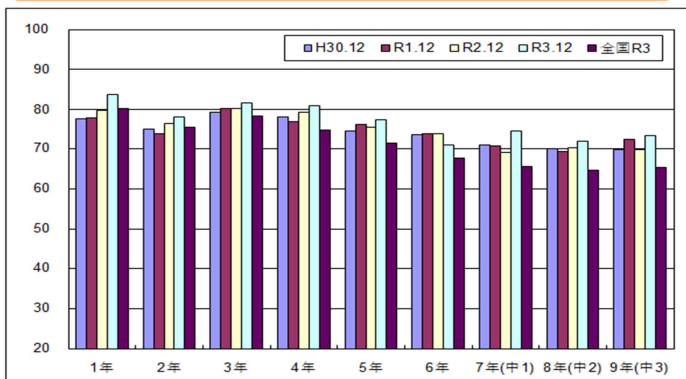
箕面学習状況調査・生活状況調査〈概要〉

- 調査は箕面市の肯定率を全国平均値と比較
- 回答は、「そう思う」「少しそう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」の4つから選択
- 肯定率とは、選択肢の「そう思う」と「少しそう思う」の割合を単純に合計した値

【自己認識】 箕面っ子の自己肯定感は…

家族とのかかわり

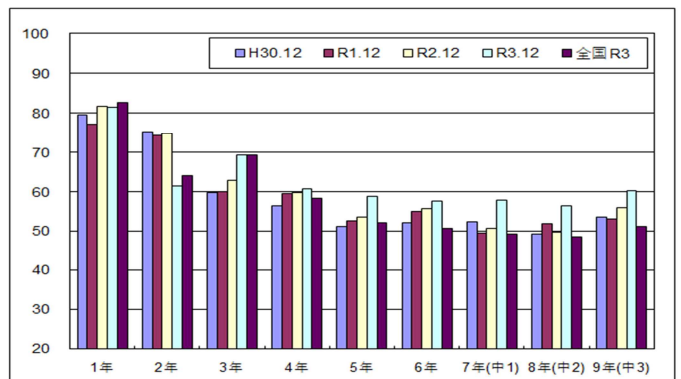
- ◆ 本当につらいことがあったとき、それを家の人のだれかに相談できますか。



安心して相談するでござる！

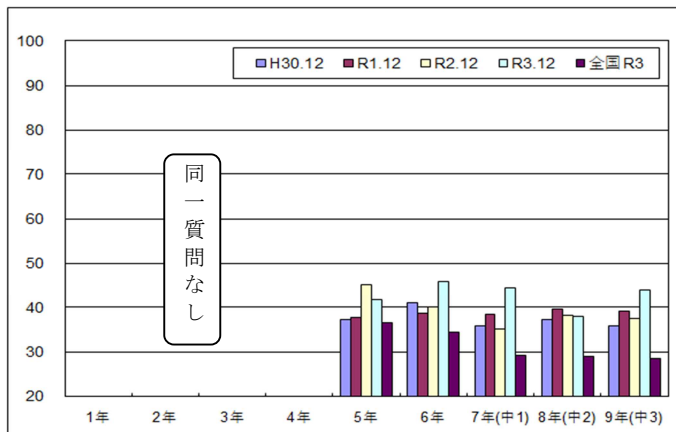
先生とのかかわり

- ◆ 本当につらいことがあったとき、それを学校の先生に相談できますか。

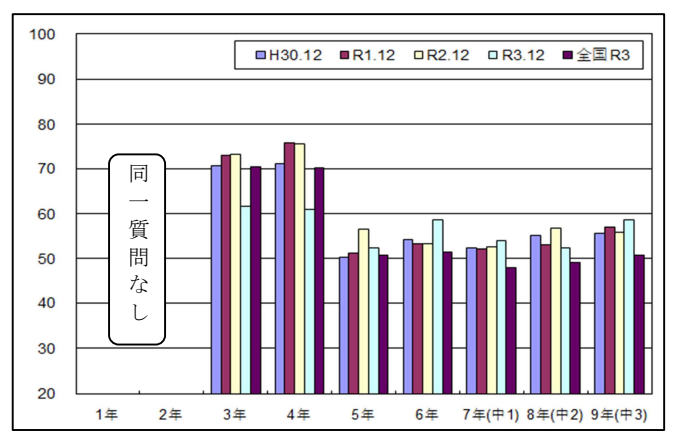


他者からの評価

- ◆ あなたの発言は、クラスのみんなを動かす力があると思いますか。



- ◆ 学校の授業やクラスの役割などで、自分は先生から期待されているんだな、友だちからたよりにされているんだな、と感ずることがありますか。



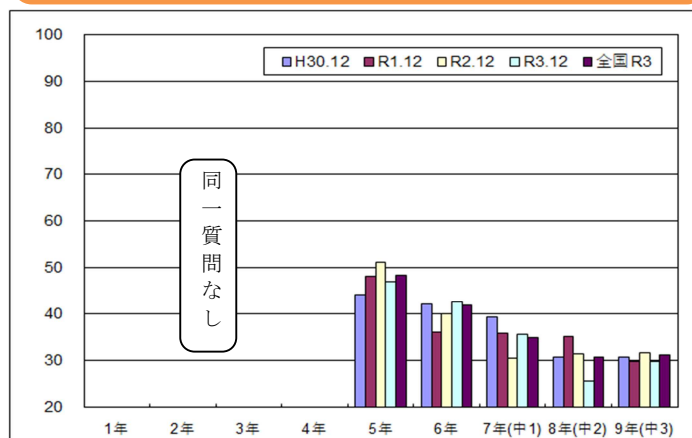
自己肯定感を「家族や先生とのかかわり」「他者からの評価」の2点から分析しました。「家族や先生に相談できる」という割合は、ほとんどの学年が昨年度の肯定率より高くなっています。「先生に相談できる」と回答した割合は、小学校3年頃から下がっていく傾向が見受けられますが、昨年度の肯定率より高くなっています。また、「自分にはクラスを動かす力がある」「期待されている、頼りにされている」と思っている子どもは、小学校5年になると肯定率が下がる傾向がみられますが、全国平均値と比べると高く、特に中学生では、高く推移していることが分かります。

自分の思ったことは、言葉にして伝えようね！

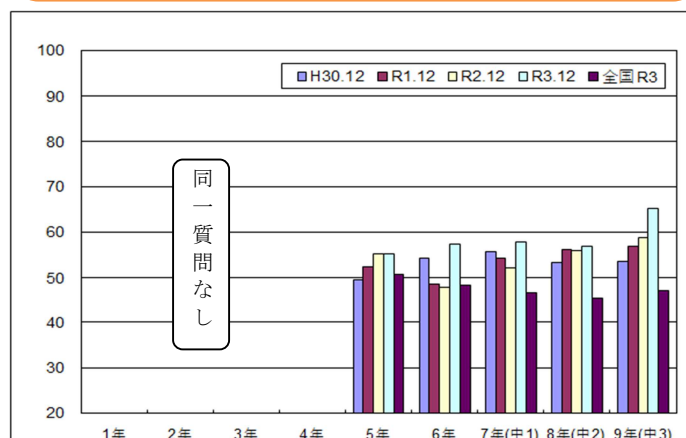


【社会性】 ソーシャルスキルは・・・

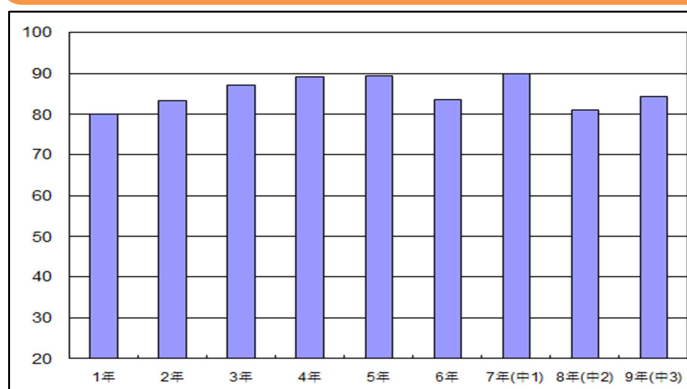
◆あなたは、学校生活の中で何回ぐらい、自分の意見を
発表したり、先生の質問に答えたりしていますか。



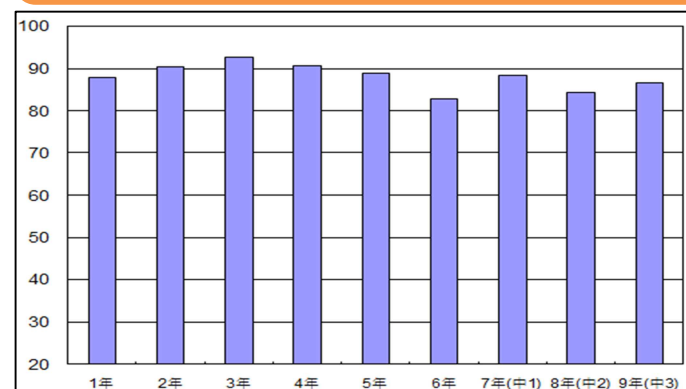
◆クラスの話し合いや友だちとの間で意見が合わな
かったとき、みんなが納得できるように考えて、提
案していますか。



◆学校の授業では、友だちと教え合う時間があります
か。

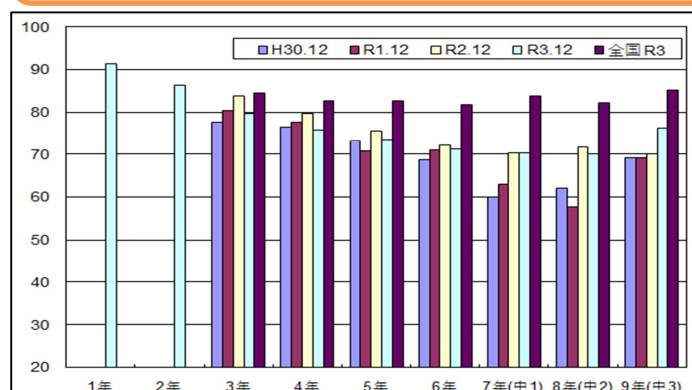


◆学校の授業では、となり同士やグループで話し合っ
たり、議論したりすることがありますか。

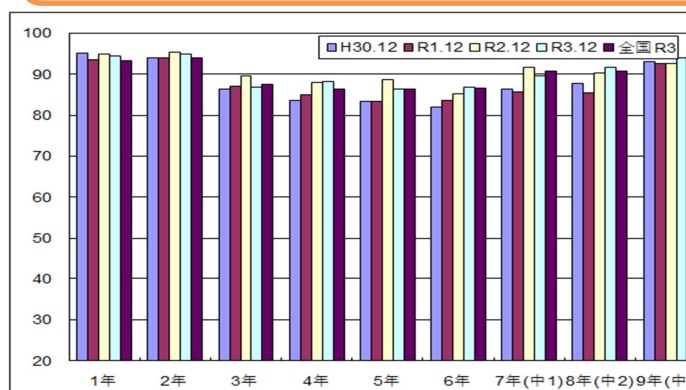


「意見の発表」は、昨年度よりやや下がった学年もありますが、「考えの提案」は年々、肯定率が上がっています。「教え合い」や「話し合い、討論」については、R3年度に新たに追加され、ほとんどの学年で80%を超える高い値となりました。思いや考えを伝え合う授業が各校で実施され、その成果が、児童生徒の意識変化に表れているのではないかと考えます。

◆あなたのクラスでは、みんながそうじ当番や係の仕
事を、責任をもってしていますか。



◆学校の規則や、クラスで話し合って決めたことを、守
っていますか。



「仕事への責任」は全国平均値と比べ、低い傾向にありますが、「規則を守ること」は、ほぼ同程度の値です。責任を持つことは、社会生活でとても大切であることを日頃から意識し、学校生活に臨む必要があります。

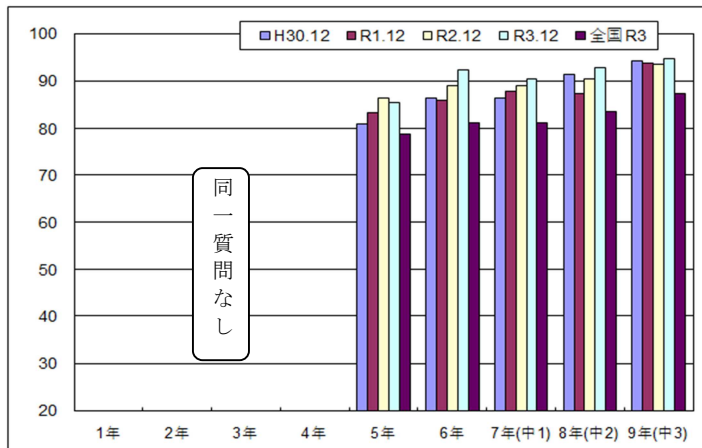
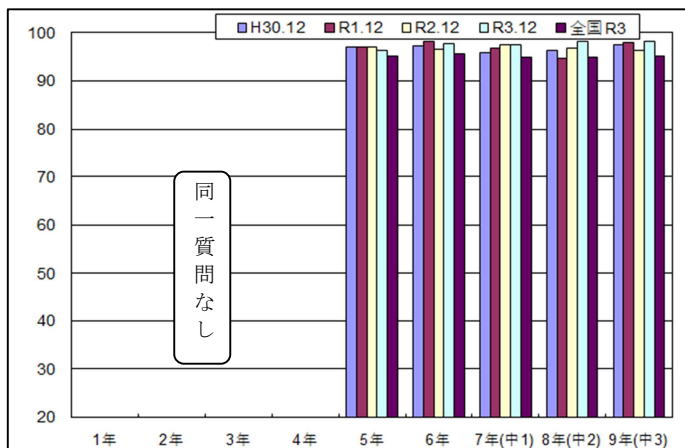
【対人ストレス】 いじめのサインは…

このグラフは、ポイントが高いほど
良好なのでござる！



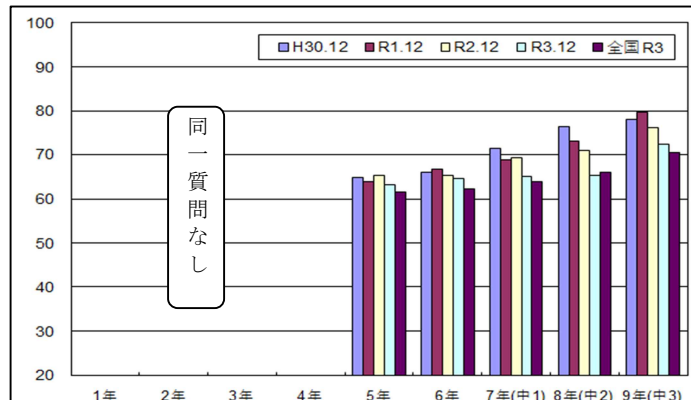
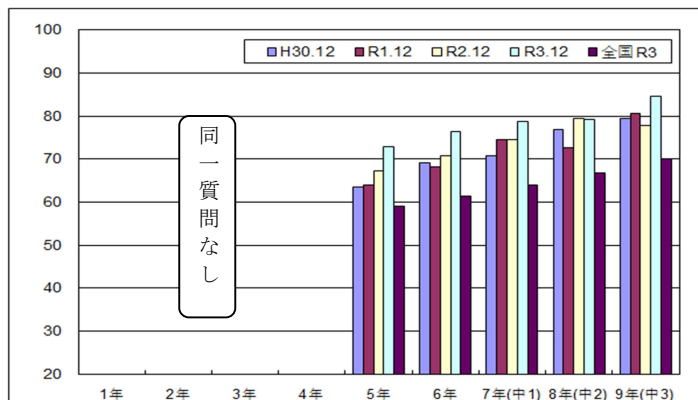
◆SNS 上で仲間外れにされたり、ひどいことを書か
れたりして、傷ついたことがありますか。
⇒「一度もない・前はあった」と回答した割合

◆自分がいつ、いじめのターゲットになってしまうか、
不安を感じることがありますか。
⇒「一度もない・前はあった」と回答した割合



◆信じていた友だちから、思いもよらぬ言葉を聞か
れたり、つらい態度をとられたりして、傷ついたこ
とがありますか。⇒「一度もない・けんかはしても傷つ
くことはない」と回答した割合

◆仲のいい友だちでも、本音では自分のことを悪く思
っているかもしれない、と不安に思うことがありますか。
⇒「一度もない・前はあった」と回答した割合



SNS 上で、いじめにあったことがないと回答している子どもの割合が全国平均値と比べて高く推移しています。「対人ストレス」を感じていない子どもの割合は、例年、全国平均値より高い結果がでています。特に、「自分がいつ、いじめのターゲットになってしまうか、不安を感じることがありますか」という質問では、全国平均値と比べて、不安に感じている割合が少なく、昨年度の肯定率よりも高く推移しています。

しかし、「信じていた友だちから、つらい態度をとられて、傷ついた」「仲のいい友だちの本音が不安だ」という質問においては、全国平均値と比べ高く推移していますが、2～3割の子どもが傷ついたり不安に思ったりしていると回答していることがわかります。漠然とした「自分がいじめのターゲットになってしまうのではないか」という不安は感じていないが、仲のいい友だちとの関係に不安を感じている傾向がうかがえます。

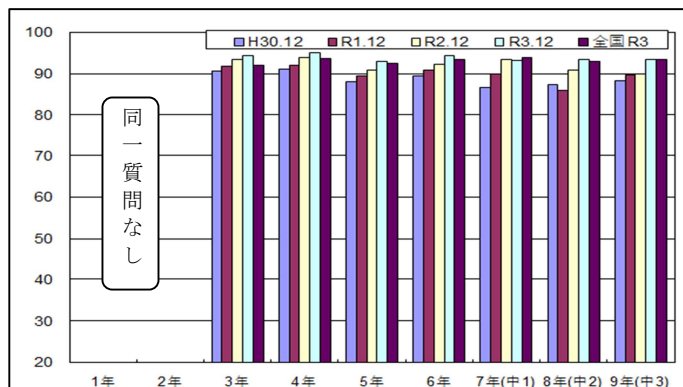
こうしたデータを踏まえ、各学校においては、学級・学年における人間関係づくり、いじめやネットトラブルの未然防止の授業、情報モラルに関する学習等の取り組みを引き続き行っていきます。また、周りの大人も、子どもたちからのサインを見逃さないよう、しっかりと見守っていく必要があります。

つらい思いをしたり、不安に思ったりすることは、相談しようね！



【学級の絆】仲間の意識は…

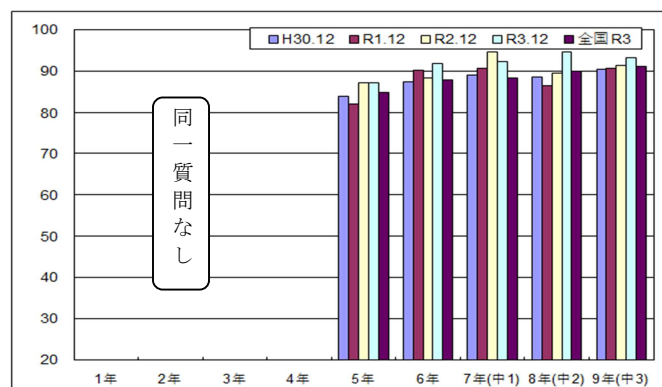
◆あなたのクラスには、いいところがあると思いますか。



クラスのいいところがあるって
素敵でござる！

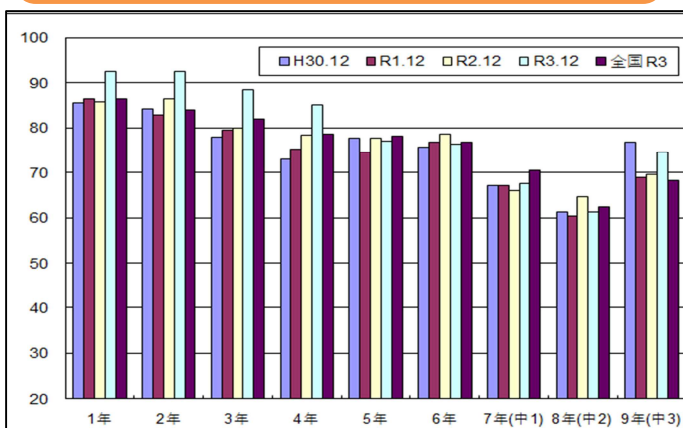


◆球技大会やクラスの発表会などがあるとき、
あなたのクラスは盛り上がりって団結しますか。



【学習習慣】家庭学習は…

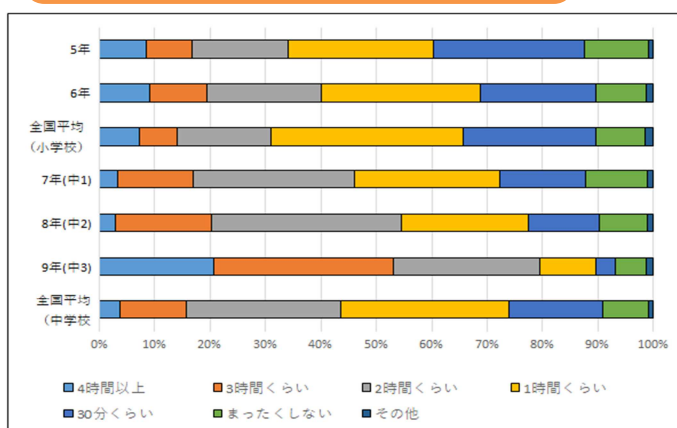
◆テストでまちがえた問題は、あとでやり直していますか。



復習をがんばろうね！



◆学校の授業以外に、平日(月～金)1日
どれくらいの時間、勉強をしますか。



学級の絆について、「クラスにいいところがある」の肯定率は、小・中学生ともに R2 年度より上がり、90%を超える数値です。「盛り上がりって団結しますか」の肯定率は学年が上がるに従って高くなる傾向にあり、全国平均値と比較しても高い値です。特に中学生については、学習の量や授業時間が増える中で、各行事が学校生活をおくる上でかせない要素となっていると言えます。最も高い値を示している中学3年生にとっては、地域の友人と過ごす最後の学年であり、卒業後は進路が各々分かれることなども、気持ちが高まり、学級が団結することに繋がるのではないかと考えます。

学習習慣について、「まちがえた問題は、あとでやり直しているか」は、学年が上がるにつれて肯定率は下がっており、全国平均値と同じ傾向にあります。「学校の授業以外の平日の勉強時間」については、小学生は1時間、7年(中1)・8年(中2)は2時間、9年(中3)は3時間ぐらいが最も数値が高くなっています。中学3年生は、高校受験をひかえているため、家庭や塾等での勉強時間が増えていると考えられます。中学生は、全国平均値と比較しても勉強時間が長い傾向にあり、学習意欲への高さがうかがえます。予習や復習に取り組むなどの日々の積み重ねは、授業内容の理解や定着に繋がります。授業以外の時間の使い方を工夫し、自主学習ノートなどを活用しながら、学習の習慣づけを行うことが大切です。



各校では、成果と課題を明確にし、取り組みの検証を行い、指導に活かしていきます。

【箕面っ子の自己肯定感】

- 「家族や先生に相談できる」と感じている子どもたちの割合の傾向は、学年によって多少の違いはありますが、おおむね高く推移しており、家族や先生に相談できる関係を築けていることがうかがえます。また、「自分にはいいところがある」「周りから期待や頼りにされている」と感じる割合も、多くの学年で全国平均値よりも高くなっています。

自分は頼りにされている
期待されている



自分に自信がもてる
学校には自分の居場所がある



自己肯定感が高まる

という、良い流れをつくっていきます。

【いじめのサイン】

- 「いじめはよくないことだ」ということは、子どもたちはわかっています。令和4年度は、いじめを止める、つらい思いをしている人の味方になるにはどうしたらいいか等、いじめの未然防止に力を入れていきます。また、子どもたちに自分のつらい気持ち(SOS)を発信することの大切さを伝えるとともに、子どもたちが教職員にSOSを発信しようと思えるよう、「共感・傾聴」を大切にします。各校において、いじめの未然防止策や対応中の事案の進捗状況を協議する「校内いじめ対策委員会」を定期的に実施しております。対策委員会のメンバーは教職員だけでなく、SC(スクールカウンセラー)、SSW(スクールソーシャルワーカー)といった専門家も入り、多面的にみることを大切にしています。
- インターネットやSNS上でのいじめは、なかなか表面に出にくい場合が多いです。インターネットやSNSを使用し始める時期が、小学校中学年頃と低年齢化が進んでいます。いじめが重篤化しないよう、日々、子どもたちの表情や言動を気かけ、各学級における人間関係づくりの取り組みや情報モラル教育の充実とともに、周りの大人が子どもたちのサインを見逃さず、しっかりと見守っていく必要があります。

【学級の絆】

- 「自分のクラスには、いいところがある」と言えるには、学級が子どもたち一人ひとりにとって安心できる居心地の良いものであることが大切です。子どもたちが、学級での成功体験や達成感を積み、「自分たちはできる」と感じるができるよう、今後も取り組みを進めていきます。

【社会性・規範意識】

- 社会性の育成のため、引き続き、思いや考えを伝え合う授業を各校で実施します。
- 集団生活におけるきまりやルールを主体的に判断し、行動しようとする規範意識を育てるために、役割や仕事に対する責任感を意識させ、役割を果たした時にはほめることにより達成感を持たせるよう、取り組みを進めていきます。

【学習習慣】

- テスト後のやり直しをしている割合は、学年が上がるにつれて肯定率が下がる傾向にあります。小学校低学年のうちから、やり直しの仕方・大切さについて指導していきます。
- 学習をする際に、課題に対して、どれくらいの時間で取り組むか計画立てる習慣を小学校のうちから身につけるよう指導していきます。